

文科省の松浦室長が資料 6-1-1(中間取りまとめ)を 22 分余で説明した後、2 時間を越える質疑応答があった。(前回の「中間報告」と正確に比較してないが、箇条書きされた部分の前に、文章表現を書き加えた様である。また、記載項目の順番に変更があり、冒頭に示されて居た「国際協力・安全保障・外交」が、最後の項目になっている。精密に通読しなければ定かでないが、「現に 5 極 16 カ国で協働している事自体が「外交活動」を実践している。」と云う考えは無い様である。国連の常任理事国に中々なれない日本が、ISS 計画の中でかなりのリソース配分を受けており、国連の常任理事国でありながら ISS 計画に参加出来てない国がある事は、重大な事だとは思わないのだろうか。次に、ISS 計画を通じて得られる我が国の利益に関し、宇宙実験・研究の成果に偏重して居り、過度の期待が記されている。ISS 計画に参加する事で有人宇宙活動の支援技術習得が破格の低コストで出来た事を深く理解していない様に感じる。また、「国家安全保障」とは「軍事力」又は「軍事行動」と一緒になっているものだけにしか思いが及んでない様である。軍事力の整備に限らず、特別な努力を払わないと技術習得できず、其の技術の輸入に困難や不自由を伴うものは、国家安全保障に係る戦略技術なのである。其の技術が無いと、国の将来の存続に危機となり得る技術が戦略技術なのである。戦争が嫌いなのは良い。小職も嫌いである。しかし、戦争の事を考えなければ戦争に巻き込まれないなど云う事は決して無い。必死になって巻き込まれないように努力しなければ避けられない時があるのである。)

池上委員長:全体、エエトですネエ、ブイマンツィアン(?)の最初のライン(?)のところに書いて御座います様に、インタ...チュウジ(?)の「国際宇宙ステーション計画の今日的意義と課題」については、あの、ヤナ(?)のゴウジドキジュウタイ(?)につきまして、先ずは「利用」について、それからムニャムニャ「有人・宇宙探査」と云う風な、それから、「宇宙産業振興」それとムニャムニャ。で、「国際協力・安全保障・外交」と、斯う云う風なムニャムニャ。で、エー、あの、取敢えずの進め方についてはもう、あの、ご案内の通りですネエ、あの、最初ヤナミ(?)とか、あの、ヒアリングも御座いまして、或いは色々資料をですネ、JAXA 或いは事務局の方に準備して貰ったんですが、其れを我々資料に基づきまして、此れまで議論をムニャムニャ云う事について、我々ムニャムニャ。で、エー、3 頁以降¹に書いて御座いますが、此方にテイレイニ(?)と云う言い方、あと、「所見」て言うのは此処で色々議論して、まあ、我々がムニャムニャ、或いは再確認だとかして...当然あの、議論をもとに解析し、で其れを受けまして「提言」て云う処で、ムニャムニャ。オカイ(?)としてですネエ、斯う云う事をリコメンドするって形でこう、ムニャムニャ。で、其れについてのあの、個別の点について、更にゴシツモンテン(?)の説明が、ムニャムニャ。で、それではあの、早速ですネエ、あの、デトイイ(?)については、あの、特に、あの一、内容はムニズニ(?)した、フラン(?)。何か御座いましたら

¹ 「 章 国際宇宙.....今日的意義と課題」の全文を意味する。

又、後程頂きたいと思いますが、最初に 3 頁に入りまして、で、A の「きぼう」の利用の処についてコメント頂きたいと。...ア、それから、此れに関連致しましてですネ、利用の一覧表、利用の内容ですネ、23 頁に先程ご紹介御座いました「別表 1」に此処で議論されたものを取り纏めてズッと挙げて御座います。で、「軌道上実験室の活用」としてはまあ、斯う云う様な事。それから、ま、此れは新たに此処で提唱された使い方、道具と云う事になるかも知れませんが、技術実証実験台、エンジニアリング・テスト・ベッドとムニャムニャ。エー、それから宇宙滞在体験、其れから恒久宇宙基地化を視野に入れた検討施設って云う、ムニャムニャ。で、此処ですネエ、どちらかって云うとライサンサンケイ(?)がまあ、非常に多い。で、私の専門分野、どちらかって云うと微小重力関係、まあ、此れはピーシーイームヲワ(?)なんですけど、どうも我々の分野から見ると、ま、使える可能性は少ないんじゃないかって云う印象を持っていた訳なんですけれど、此れ迄ですネ、国内公募、此れはゴアツ(?)の方で色々ムニャムニャ、此れ迄の国内公募を見ますと、ライフサイエンスが 118 件、所謂微小重力科学関係 38 件、こりゃ良いんです。研究者側からの提案を見ますと、ホントに 3/4 がライフサイエンス関係なんです。どうも、大きな展開が予想できる分野として、矢張りライフサイエンスのムニャムニャ。で、斯うやって、此れであのー、ヒトクラ(?)の、ライフサイエンス関連の...要するにコイ(?)なのかも知れませんが、アー、将来期待されると云う風に、他のセンブキ(?)に、ムニャムニャ。で、同時にです

ネエ、その、暴露部を使いたいと云う提案は、此れ迄ですネ、国内公募で 100 件以上ウカエンチテ(?)で、キョウ(?)見ますとほぼ使うと云う、今迄、そう云う使用、中々難しかったんですが、どうも矢張り一般の研究者、技術者、或いは企業のハタテキ(?)ま、そう云うギダイ(?)は斯う云う使い方をしていって云う要望が、此れ、潜在的に多そうです。従って、此処で使い易い様な暴露部が提供されればですネ、一寸其れを使いたいと、そう云う世界を期待する...「きぼう」のトイシタ(?)或いはミショオン(?)と云う事が、あのー、全体から見ますとですネエ、分かるんじゃないかと云う風な事が考えられます。それではどうぞ、ご意見御座いましたらどうぞ²。

浅島: エエト、一つあのー、此の「所見³」のところですけども、あの、此れはまあ此の儘でも良いのかも知れませんが、そのー、ホガタムイテ(?)色々本格的利用が開始されたばかりだと云った様にカシタイ(?)って、これからオクバイチェン(?)なんですネ。ですから、一年シカン(?)考えた様な事を少し言っとかないとですネエ、その、あやふやな言葉ってのは、非常に誤解を招くだろうと、マタイケシテ(?)ネ。ですから、

² 此処までで 5 分以上掛っている。

³ 以下に引用する:「これまでの軌道上実験の成果については、「きぼう」の本格利用が開始されたばかりでもあり、将来につながる興味ある成果(タンパク質結晶生成や予防医学等)も出てきているものの、当初の期待に対してはまだ十分満足できるものとは言えない。」である。「誤解を招く」ではなく「言い訳」に聞こえる。

そもそもの期待に対して先ずニュリョク(?)する、満足は出来ない。じゃあ当初の期待は何ですかと云う事をキチツとしとかないと、此れがその一、非常に何て言うか、あの、少なくともライフではキチンとですネエ、当初の期待の70%行ってますネエ、もう其れを越えたものもあると。ですから、そう云う様な事で、言葉って云うのは非常に重要で、あの一、或る分野ではかなりその、成果を上げたとしていて、あるものは上げてない訳ですけども、其の辺をですネエ、エエト、此れを見た時にあの一、必ず当初はどう云う期待があったと云う事が言われてて、ムニャムニャ。

池上委員長:ムニャムニャ。ア、山川さん。

山川:はい。エエトあの、コクチャマ(?)先生同様で、当初の期待は何かと云う事を明確化した方が良くと云うのが一つ。あと二つ御座いまして、4頁の提言、一番下の部分ですけども、「良好な国際関係の可視化と国益に配慮した外交」此れ、国益と云う意味はあの、その、Eの「国際協力・安全保障」のところに書いた方が宜しいんじゃないかと云う風に。その、一寸唐突に出て来る様な気がしますので。ま、一寸気になりました。其れと、もう一つですけども、矢張り「提言」の下の方に書いてある、その、「資金の効果的な投入」って云う部分ですけども、其処、私の記憶が正確ではないんですが、JAXAさんとそれからインドですネ、ISROとの間で、エエト、確か回収型の微生物バイオ実験、確か計画されて居るかと思うんですけど、例えば、そう云う風にしてですネ、その、所謂ISSだけじゃなくて、衛星、含めたその、プログラム全体と

して、ISS以外を含めたですネ、効率的な資金コシキュウカ(?)そう云った観点も一寸一言入れといた方が良いのではないかと云う風に思いました。

誰か:宜しいですか?

池上委員長:ア、一寸スイマセン、今のですネ、此れあの「良好な国際関係」確かに(くしゃみで聞こえない)入れた方が良い。此れ実はあの、利用の処で、**枠の取り合いになるんじゃないかと、矢張り、海外に対する枠も、利用の処ですネ、取っ**いた方が**良いんじゃないんですかって云う意味で此処に入れてる⁴ん**です。そう云う事でムニャムニャじゃあ、其れ、表現、あの、でないとは多分、日本のムニャムニャだけでやりましょって云う話になっちゃうと、そうですかねって云う事になっちゃう。...ア、どうぞ。

廣川:あの一、エー、**4頁ですネ、3番⁵**なんですけれども、あの、軌道上実験室については云々の処で、「研究者・利用者の

⁴ JEM を外国の研究者に利用して貰う為に、国内とは別に外国枠の資金を用意しようとするのか。それともリソースの枠だけで、お金は準備しないと云う事か。但し、どちらであっても、我が国の研究者の実験機会を確保する様に国際的に交渉して定めたリソース配分の中から、何の為に外国の研究者の優先枠を設けるのか解らない。国連の常任理事国選出時の票集めなのか。それとも、配分されたリソースを使い切れない不安が極度に強いので、外国の研究者への開放を考えるのだろうか。後者の想定は「枠の取り合い」と云う心配事には反する状況であるが...

⁵ Aの「提言」の第2段落の2番目の文節の事。

挑戦的な基礎研究あるいはイノベーションに繋がるテーマの提案を幅広く喚起し、「あの、此処は良いと思いますが、其の後の「その評価のための新たな枠組みを検討して行く。」此処にですネ、其の間にある「テーマ選定プロセスを利用者の主体性を持たせた仕組みとする事を原則とし、」って、これは一寸意味からして、多分かなりの、何て言うんですかねエ、あの、意味が深いんだと思うんですけど、一寸分かり難い⁶んですネ。つまり、其れ矢張り、此処は非常に重要で、限られた時間とまあお金と、それから、ですから、何をやるかって云う事、例えば生命科学関係、或いは宇宙医学など、其れをどの様に選定して、そしてその、途中でどう評価して云う、其処ら非常に大事なんで、此の文章が...どんな...

池上委員長:寧ろあのー、山川委員とか、浅島委員から言いたい事があるんじゃないかと。

浅島:あのー、今、廣川先生が言われたのは非常に重要な事としてネエ、此の「選定のプロセス」って云うんとか、「利用者の主体性を持たせた仕組み」って云うのはですネエ、あのー、僕はゼ(?)公募って云うものを作って居まして、公募の中か

⁶ 此の様な状況の中で「分かり難い」と発言すると、多くの場合「承服できない」事を意味している。廣川先生が承服できない事が何か推測が難しいものの、対応した発言の中で何の対応も出来なかったので敢えてコメントした。小職は、「利益の相反する利用者同士によるテーマ選定に任せるのは、資金提供者の怠慢である。資金提供者は目標を明示せよ。」と推測したい。

らそのー、第三者が選ぶと云う、選定委員をその、第一次選定と第二次選定、其れからそのー、選考委員会を作って、それからハアクベリイ(?)それから、其れの持つ危険性とか、特にですネエ、エエト、ヒトライン(?)であのー、...其れはモチ(?)でもですネエ、ホントにそのー、エエト、例えばですけども、技術的にですネエ、そんな事は出来ないって様なところもある訳です。技術的評価もやってる訳です。其れで色々な評価をして、ホントに其れが良いかと云う様な処もあってですネエ、斯う云う、或る意味非常に分かり難い言葉んなってると思うんです。最初にあのー、まあ、評価とか言われた様に、そのー、もう少しドウミ(?)で分かる様な、言葉にしといた方が良いかもしれないです。

池上委員長:何か其れについて、ご意見ありますか。或る意味じゃ今迄のテーマ選定について、エー、あの、色々問題点で云うか、アオサイエ(?)ば、良い事があるんじゃないですかネって云う事だって風に思う⁷んですけどネ。

浅島:エエト、例えばそのー、広くそのー、カワグチシ(?)そうなるんですネエ、エエト、選考テーマ、そのまあ、透明化って云

⁷ 此の報告書案は事務局が纏めたとは言え、委員長がかなり手を入れて居る事が発言の端々で分かる。それなのに「思う」などと云う言葉で結ぶのは卑怯である。今迄の宇宙実験の成果が少ない(本当に少ないのかさえ評価出来ていない)と言うなら、其の原因が「テーマ選定の方法」にあった事が確認出来ているのか。「取敢えず、何か変えておけば何か良くなるだろう。」と云うのは、鳩山政権が失墜した要因と、極めて酷似したものを感じる。

うんですかネエ、其の辺をもう一寸、透明化ってな事をもう一寸入れといた方が、或いは良いのかも知らない。

池上委員長ア、どうぞ。

田中:此の辺、エンチ(?)ではないんですけど、私も此処ん処良く、分かり難いナと思っただけであります、もう一点、此れもあの、こっちの、その、ムニヤムニヤ。最後のパラグラフですネエ、後から二つ目のパラグラフ、「リスクの大きな将来に向けた研究・技術開発を機会コストにより評価することには限界があることを理解した上で、」と云う、此のセンテンスもですネエ、何か私には一寸、タダシク(?)ピンと来ない。あの一、「機会コストにより評価」って云う事には「限界がある」っていうのと、其の後とはどう繋がって⁸んのかムニヤムニヤ。

池上委員長:ア、ア、此れはですネ、色々議論したスウ(?)の中ですネ、現在の、今あの、仕分けで以て色々議論してますけれど、非常に目標が明確な場合はですネエ、コストのサンテク(?)方が比較が出来る訳なんです、現実(?)とか、或いは教育とかですネエ、まあ、謂わば国防⁹みたいな

⁸ 「限界がある」けれども「管理コストと利用支援コスト」を「切離して評価する」と繋がるが、「切離す」事が「費用対効果を明確にする」事と相反している。又は、其の片方を「お見逃し下さい」と言っているのか。

⁹ 国防体制の充実と、其処に投入した資金の関係から、其の費用対効果を算出することは難しい。だから、国防費には天井が設けられているのであって、「お見逃し下さい」と云う様な事は言わない。保険金の掛金の額を個人が決心するのと同じである。

処は中々その、エー、何を持って八カ...其の成果を測って良いかって事が良く分からないと云う事を、オー、シーアウトウブン(?)で斯う云う様な表現ですネ。.....アアト、仕分け人に対すると云う事じゃない¹⁰ですけどネ.....ムニヤムニヤ...此れは寧ろサステンデ...オンターネット...

角南:あの一、先ず全体的に此のセクションがやっぱり。...もう少し幅広く色んな人から、ムニヤムニヤ。少し分かり易く書くべきなのかナアと。特にあの一、エー、産業界が余り斯う、ハーカッテキテ(?)まあ、見えない感じ¹¹がします。結局その一、エー、キタイマシテ(?)とか云々もそうなんですけども、今のブルースカイ(?)で、リスクの高い研究をやると云う前提で行けば、当然企業よりもあの一まあ、所謂公的研究と云うテイ(?)としての利用と云う事になるのかも知れないナアと。その反面で、バイオとかですネ、それからムニヤムニヤ、価値があるかも知れない、或いは若しかしたら其れ以外に、あの、ムニヤムニヤ処にムニヤムニヤの話があるかも知れない。そう

¹⁰ 「仕分け人対策で書かれた文章であるが、そんな事は口に出出来ない。」と言っているのと同じである。

¹¹ 何の議論もしなかったも同然なのに、其れが書ける訳もなく、見える筈が無い。「産業界の意見を聞いた。」と思っているのかも知れないが、MHI、IHI、千代田化工の意見聴取をして、宇宙に施設・設備・機器を提供する産業界の話の聞いただけである。また、ISSを利用する産業界からは、持田製薬から西島特別委員が参加しているだけである。JAXAのサーベイによる潜在ユーザの報告だけで、此処に産業界の意向など反映できる筈がない。

云う事を考えると、もう少しその一、表現の中にあの一、産業界って云う部分が、もう少し研究開発ムニヤムニヤ、上手くその一、色んなフェーズを組み合わせながら、斯う云った施設を利用出来る様な、ア一、事も考えるべきと云うかですネ、少しその一、エ一、産業界の研究開発向けの何かメッセージがもう少しこう出て行く様な、デンピョウ(?)には、幾つか書いてある、具体的な潜在的利用って云うの書いてますけど、ただ、後で出て来る此の「宇宙産業振興」ムニヤムニヤ、此の「きぼう」を作る為のメーカーさん達には分かるんですけども、じゃあ利用って云うか、今迄宇宙に関してメ(?)ないんですけども、その、利用すると自分達にどう云う様な研究開発の、まあ、言ったらイノベーションと云うカンガタ(?)と云う人達に対しては、一寸此処の処であの、ムニヤムニヤけど、分かり難いナァと思います。で、そう云う事を踏まえると、その一、ウェンティ(?)コストをゲンテン(?)まあ、此れまあ、全体であるとですネエ、当然そう。でー、「利用の費用対効果を明確にするため、」と云う事も確かにそうなんです、ま、其れはその、所謂研究者のレベルの話と、其れから産業界に於けるR&Dの話、例えば斯うムニヤムニヤ。やっぱり産業界からのヨフトカンジ(?)どんな風にアレがあって、斯う云う制度を作ればもっと使えるようになるかって云う処を、上手く斯う、書くスキマウス(?)事が重要ですから。

池上委員長:あの、かなり本質的なお話で、此れどちらかと云うと研究者の考え方、言い方になってると云う事。そうは言ってもショウライ(?)分からないから、コノヘカインデ(?)文句言

うナと。なんです、寧ろその、ま、あの、ゼンチテシキチュ(?)じゃなくて、ゼンチ(?)をもう少し、一般的には良く社会貢献とか、産業界に貢献するとか、...そう云ったものも入れといった方が良くないんですかと云う事¹²ですネ。...ア、どうぞ。此れに関連して?

鈴木:ええ。あの、此れは私の専門でないんで、あの、一寸分からない処あるんですけど、あの、こないだから、ま、此れあの、ま、今此れをもっと活用して行く為にはですネ、斯う云う段取りが必要だと云う話し合いの前に、向井さんが仰った様な、其の、何と申しますかその一、まあ、直接書く話じゃないと思うんですけど、補助金と言いますかその、此の前段階の研究にですネ、もう一寸斯うあの、お金が必要、だからムニヤムニヤ、もう少し上がるんじゃないか¹³と云うお話がありましたネ。ですからそう云うその一、あの一寸表現難しいんですけども、その、全体としてもう一寸斯う、あのー、まあ、研究一般モンカ(?)と申しますか、サカキガル(?)研究をその、一本化して、あの一、そう云う枠組みが出来ればもっと成果が上が

¹² 『ISS計画の今日的意義』を「ISSとJEMの利用」「有人技術・宇宙探査」「宇宙産業振興」「教育・啓発」「国際協力・安全保障・外交」の5項目に分けて論じている中で、何故「ISSとJEMの利用」の項で「社会貢献」「産業界への貢献」を書かなければならないのか、理解に苦しむ。美辞麗句が並べば其れで良いと云うのか。

¹³ 確かに向井特別委員は其の様な発言を繰り返し行われたが、特別部会として其れに関する議論が深まると云う事は一切なかった。総じて「言っただけ・聞いただけ」だったのかも知れない。

るんじゃないかと云う様な話もあると思うんです。ま、其れを
その一、

池上委員長:ア、そう、ア、分かりました。じゃ、此処を分けて、ジョ
ツウ(?)と、それからホアンスイシン(?)コストは分けましょ
うと、但しその、研究支援コストを十分入れなければいけない
ってのは、此処には書いてありません。で、やっぱり其処ま
で...あの...やっぱ、議論では...で、一応あの 8 頁¹⁴にはで
すネ、若干あの、其れについてあの一、ゴククミ(?)の中
には書いてあるんですが、.....矢張り、あの一、使う側にキチ
ツと資金を入れておかないと、あの一、良い成果が生まれて
来ないムニャムニャ、明示的に書いた方が宜しそう¹⁵ですネ。
多分向井さんがいらっしゃれば、多分其れを仰るとは思うん
ですけど、今日、欠席ですんで。

鈴木:あの、結局まああの、書き方が大体難しいのかも...あの、
お金を尽くしたらと云う話より、そう云うポテンシャルがあるヨ
と云う、そう云う様な表現が宜しいんじゃないかと思えます。
あの一、もう、勿論鐘ドンドン使う表現すれば、そりゃまあ成
果は...一般的にはなるんですけど、其れよりもあの、そう云

う表現じゃなくて、もっと斯う、一寸そう云うところを工夫すると、
もう少しポテンシャルがああ、成果がムニャムニャあるヨと云
う風な表現の方が妥当なんじゃないんでしょうか。

田中:あの、エエト、此の何ですか、「リスクの高い研究・技術開
発」について、Opportunity Cost って云うのを使うと云うのは、
あの勿論仕掛けの話、要するにまあ、ムニャムニャ難しい様
なんですヨ。安易なツカイステ(?)コストのニオイノ(?)その
一、費用考えてないと云う事だと思っんですヨネ。だから、
400 億円を此れに使わないであれば、他にやれたであろう
事と比べてと見ると、此れは全く大差と云うか、まあ、ムニャ
ムニャじゃないですかって云うのは、相当安易な機会コスト
と云う物の評価ですヨネ。じゃあ 400 億円だったら学校が幾
つか建てられるでしょうとか何とか、そう云う話ですと、斯う、
あの一、矢張りムニャムニャ。で、特に、オオキナノ(?)って
云うのから出て来る、その、機会コストに耐えうる例とか、あ
の、エー、何でしょうか、カクイキチツ(?)は、一つあって、
あの、とてつもない事が起こった場合のベンレキ(?)って云
ったらとてつもなく大きくなる訳ですから、あの、そう簡単
には比較出来ないんじゃないかと思っんですヨネ。だから、あ
んまり此の「機会コスト」って云う言葉使うのが良いかどうか
って云う感じがするんですけどネ。あの一、それで、あと、後
の方に其の、コストの事ばかり書いてる感じがして、やっぱり
費用対効果だから、効果としてどう云う風なものがあり得るか
って云うものに若干触れといた方が、あの一、エー、良いん
じゃないかなと云う気がするんです。勿論此処で効果を入

¹⁴ [A. ISS・「きぼう」の利用]の本文、(4)「きぼう」利用のシステム
改革の中の箇条書き、4 項目の の最後の方に書かれている。
小職が再編集した資料では 6/16 の右欄中程になる。

¹⁵ 向井特別委員が其の様に主張していた事は確かだし、資金投
入も無しに良い成果を産めと言われても出来ない相談ではある
が、其の資金を入れればどこかの資金が減るのであるから、十分
に吟味し、責任を持って報告書に載せなければならない。

れる訳じゃなくて、効果はその、後の処に出てるんでしょけども、その一、提言と言え、以下の色々な処で触れる様な効果と、其の夫々のコストをイッセツ(?)に把握して、評価すべきであるってな雰囲気にした方が...

池上委員長: ああ、そうですか。で、一応今回その、【提言】で一番最初の 2 行¹⁶に、エー、あの、ジュブンデデテッテ(?)書いた心算では居るんですが、あの、もう少しブレークダウンしたものが必要かって云う、ムニャムニャ。

田中(?): 良いですネエ。

池上委員長: ア、そうですか。ソレハシノ(?)とこのあの、ジョニカイ(機会?)コストと云うの、安易な機会コストって云う様な見方を、リスノアオキ(?)以て何かやると云うのは、おかしいんじゃないんですかって云う事ですか?

田中: あの、私が富山(?), ウチロ(?)の方のジギョウダイ(?)ですけど、此の「リスクの大きな、将来に向けた研究・技術開発」による、その、機会コストに対比されるデンリョク(?)ってのは、例えば、バイオクソ(?)がどうするかっての、前に議論した事がある。そう云うので、意図したら此れはもう買える(?)訳ですネ。だから、其の辺のベネフィットを無視して、400 億円だったら学校が 13 建てられるってな、そう云う印象を持ってんですが、其れを一般的な言葉で何て言ったら良いのかって事、4 月に出て来ましたが、あの、機会コスト

と云う言葉は一寸此処では、使うと誤解を招く感じがある。此れを使うと何か、エエト、機会コストって云う言葉を使う人の議論に、エエト、負けちゃうって云う感じがあるんです。

池上委員長: ああ、ハア、ハア、ハア。分かりました、はい。

角南: あのー、良く読んで見ると、やっぱりおかしいナと。ムニャムニャ。田中先生仰った様な、タイコウソクロン(?)と云う事で、持ち出している処のレベル(?)の議論も、それから「リスクの大きな将来に向けた」と云う処も、此れどうも、僕はアンツ(?)があるんで、それで、此処で言ってるベネフィットと云うものと、それから、そもそも利用...機会コストと云う事であるんですけど、今此処で議論した、もう少し、始まったばかりだし、もっと利用も増やさないといけないし、色んな斯う、アイデアで、カズウチャナ(?)あったと。利用して行く方向を考えましようって云ってるんで、其れの提言の中に、いきなりその、特にイタイモウソウ(?)で、エー、コジマリ(?)あの、田中先生仰った通りだと思んですけど、色んなその、エー、社会に向けて(咳払い)事が、色んな計画の中で起こっている事については議論しませんよと云う、一寸...

池上委員長: ああ、成程。余りあの...寧ろ此れ全体に...

角南: 此れはですネ、僕は基本的には、あの、外部政策(?)ってな行って行けば、もう、テイダッシュ(?), 極端なテイダッシュって云う事だと思んですけど。だから、リスクの高いものに対して、エー、或るその、成果を問う、求めて居て、其の成果に基づいて其れをどう評価すかって云う事で、多分問題が生ずる。で、此れはあのー、普通の研究者にとって直ぐ、それ

¹⁶ 再編した資料では 3 頁右にあり、3 行になっている。第三者の冷徹な目では、宇宙担当者の単なる期待としか読めない。

からあの一、ケイゼン(?)にはシリョウ(?)の場合はシリョウ(?)と云うメカニズムの中で、其の成果をムニヤムニヤして、結果をムニヤムニヤ事を考える訳ですネエ。ムニヤムニヤ。其処の処の色んなその、成果って云うものが色々あるんで、科学的な此れ、意味があるんですかと云うような極端なウケダシ(?)みたいな話に対しては、ダシマキニンボ(?)斯う言いたいんでしょうけども、だからまあ、其れは機会コストじゃない訳です。

池上委員長:分かりました。じゃあ、実はネ、そう云うご意見をお聞きしたかったんですが、其れだったら削りましょうか? そう云う事で宜しいでしょうか?

青江:丁度此の辺りの文章で、私、分からない事が二つあるんですけどネエ、「費用対効果」と書かれて居る時に、「施設の維持・管理コストと支援コストを切り分ける」と云う時に、「費用対効果」の時の「効果」は別に置いて、「費用」をどう分けるんですかと。どうも、私は両方足して「効果」と云うものを見るんじゃないかと云う風に思う¹⁷んですけども、其れを分けてやれて云うのはどう云う事なのか訳が分からん、と云うのが1点。

¹⁷ 此方が正論だと思う。「宇宙実験は高価であるから、全額負担には耐えられない。」と感じて居て、其れを単に「切り分ける」と云う安直な選択をしたのではないか。「ISS 計画に参加し、施設を作り、又其れを運用して行く」事の効果を評価した上で、其処に

の資金を掛けても十分に正当性があると評価した上で、残余のコストを利用実験に割掛ければ納得し易くなる。其の手続きが無いので、「訳が分からん」と言われて当然だろう。

それから、此の2~3行下の、「経費分担」について、産業界が入って来る時の「経費分担」、「官民分担」ですネエ、「官民分担」につきまして、「産業競争力強化を目指した国の長期的投資と位置付ける基本姿勢が必要である。」と云うのはどう云う事を言ってるのかと。要するに、民に余り資金負担をさせるなと云う事を言っとるんですか?

池上委員長:そう、そうでしょうネエ。

青江:あの一、国家キガンニシツル(?)であるんで、と云うのがホントに正しいのか? あの、民には応分の負担をやっぱりキッチンとして貰うべきものはして貰うと...云う事なんじゃあないかと思う¹⁸んですけども...良く分かんなくなりました。

池上委員長:で、済みません、最初の話はですネエ、此処で議論していた、あの一、向井さん...パフォーマンスと云う言い方をするんだけど、ツールに掛るお金、今迄6千億円ムニヤムニヤ云うのを、ブンブ(?)にも拘らずそうしたんだ、フンジツ(?)成果を上げると云う立場になって見ると困りますネ、斯う云う話なんです。研究をやるには其れに必要な研究費があるんでして、で、其れを分別して考えたら如何ですか? のが、研究をやってる側の提案なんです。其れについて此処に書いてある訳です。

¹⁸ 其の通りだろう。優遇措置に依って民が国際競争力のある製品を纏めたとしても、輸出した途端に「不公正な輸出」だと非難され、報復措置を取られることは避けられないと思う。民の資金負担軽減を考えてはならないと云う訳ではないが、「不公正」にならない範囲を見極めた上で議論すべき事だろう。

青江:私はおかしいと思ってる¹⁹んですネ。掛る費用は費用だと。
 角南:此処の処はもう少し議論を、ま、此処でまあ結論が出るかどうか分かりません²⁰ので。普通だと例えば、全てのムニャムニャ開発に掛った、ムニャムニャ。所謂その、サックコストと言って、だからこそ安易にですネ、リュウシエーション(?)どれ位だって、此の段階でどう利益を出すとか云う様なムニャムニャ、全体的なその一、長期的な政策って云うのがある訳で、普通は思います。で、其処ドコバシテ、(?)で、此処で今のその、ランニングコストだけで、費用対効果って言われると云う事の方が、逆にさっき青江さんが仰った様な、謂わばあの、ダブリブンデ(?)しまうかのせいもある訳です。

池上委員長:ア、だから、

角南:何となく斯う云う、ジイブ(?)のところで、...

池上委員長:今此れはネエ、一寸どう云う事かって言いますと、大体アメリカの方はNSSとかですネ、色んなファンディングエージェンシーがある、ナショナル・ラボと位置付けられてる宇宙ステーションのムニャムニャ。で、日本の場合ですネエ、其れが削られてしまうと、研究者が研究やろうとした場合に

ですネ、負けちゃいますヨと云う処が基にあるんです。ですからドウクラ(?)の話と、あの一、分けて考えたら良い。で、最終的には何れにしても取ったらどうかって議論になりますので、.....ア、どうぞ。

田中:あの、此処の処もやっぱり一寸此れは、...ややこう...私見的な或る種の安易な評価の中に斯う、あの、一寸迎合して、あの一、マエッコ(?)って云う様な感じがする²¹んです。しますので、だから、あの一、確かに今迄掛った議論を全部足して、其れをドンドン言って、今の成果って言われたら、其れはちっちゃくなっちゃう、或る意味では。だけど、ソモフツウ(?)とするのがおかしいんですヨネ。だから、成果って云うのは、今出てるものだけが成果なんじゃなくて、此れから殆ど無限に互って繋がる成果を沢山得たものが、今迄掛けたサックコストの分子になる²²訳ですから、そもそも、その、そう

¹⁹ 「私は」と控えめに表現なさるが、「国民及び政治家は」と置き換えても全く同じだと思う。宇宙医学の研究者の意見として、共感出来る処が無い訳ではないが、「提言」と呼ぶには相応しいと思えず、「願望」と呼ぶなら許せるのではないだろうか。

²⁰ 中間取り纏めとは呼んでも報告書であり、文科大臣によって国家としての議論に供せられる。其の最終回に当たり、余りにも呑気な発言である。

²¹ 何となく言い難そうに、かなりきつい批判の言葉を使ってしまった。

²² そうだと言えない訳ではないが、「サック」と考える事自体に問題がある。宇宙実験での成果を期待してJEMを作る資金を投じたのではない。また、地上実験に依る研究だけでは先に進めなくなったので、宇宙実験を始めた訳でもない。もっと忘れてならないのはIEMの設計開発と運用を通じて得た宇宙有人活動の為の技術習得であり、此の時期を逃したら二度と機会が無い事である。此の議論を真面目にしないで、宇宙環境利用実験で期待される効果ばかり論じて、信頼して下さっている方々は納得しても、疑いを抱いていらっしゃる方々には論外として扱われてしまう。

云う最初の1年目の此の評価の下に斯う出て来るって云う事が、そもそもおかしい訳で、で、其れをその、おかしい評価を前提として、じゃあオダソウ(?)だったって、今年の利用コストと今年成果を出しましようだったって、此れは一寸おかしいと云う風に思っています。

池上委員長:ア、ですから、一寸...チョ、産業界であると、此れはさっき言った減価償却をですネエ、税法上の色んなやり方がある、で、評価が出来るんだけど、一寸国の基幹プロジェクトって云うのは違う²³んではないですかと云う事は確かなんです。アモタイゼーション(?)とクヒハク(?)は此処には入れて良いとムニヤムニヤ。ア、それから、あの、...もう...ア、じゃあどうぞ、どうぞ。

井上:あの、同じ様なアレなんですけど、あの一、一番最初に「機会コストにより評価に限界がある」と云う処から、ムニヤムニヤ、要するにカシツケル(?)、その一、所謂学術研究とか、そう云う観点からすると、或る種の機会活動、将来に向けたものって云う様に理解すれば、或る種国としてのアルシ、ダイコク(?)とツナガッテ(?)与えられてる訳ですネ。此れは或る種の学術研究の費用が与えられていて、そう云う点から言ったら400億って云うのはやっぱり明らかに高過ぎる訳です。ですから、その、「学術が何々を」そう云う観点から云うならば、其れに見合った部分で、ISSは其の中の、其の部分の

一部ですと。他の部分には、今の当に国の基幹技術として、考え方で、ハッキリした別の観点があるって言い方でカエラレナイト(?)その、そこだけのヨイリヨブブン(?)に該当するって言ったら、ヘラズモンカ(?)筋が通らなくなる。結果として企業努力、其れで企業努力と云う言い方になってるんだろう...

池上委員長:ア、そうですか。此れあくまでもネ、あの、やっぱり研究に必要な経費を出してくれると云う事を、斯う云う表現で言ってる²⁴んでありますですネ、あの、だからと言ってあの一、.....どう言ったら良いのか...研究だけで以てあの、コストパフォーマンスが達してるかって、ムニヤムニヤ。即ち分野って思ってます。ムニヤムニヤ研究費を別枠に出してくれよと。例えばあの、ゲンセイキキ(?)がタンショウ(?)と云うのが、或る意味ではテイキンダ(?)要するに1億円掛けて百円・二百円出せって云うのと同じ様な感じなんです。其れに対する、あの一、そう云う事じゃないので、やっぱり研究に必要なものについてはキチッと、或る程度出す必要があるんですヨと云う事を言いたいんで斯う云う事になってるんです。

青江:其れは、カンショウ(?)ではない。

²³ 「違う」だけで片付ける相手がISS特別部会の委員であれば可能性があるが、事業仕分けの方々に通じる論理ではない。

²⁴ 何がどうなったとしても「研究に必要な経費」を新たに出す為には、外の処から削減して持って来るか、国債を発行して後年度に負担を送らなければならない。何処から出すのかが無策であれば、「提言」とは呼べず「懇願」としか呼べない。普天間基地の移設問題で「最低でも県外」と発言したのに良く似ている。

池上委員長:違っていないと思うんですけどネ、其の辺。あの一、何処を強調するか...と云う事になると思うんですヨネ。...ですから、何かこう.....ま、何れにしましてもですネエ、あの一、理解して貰う様な表現にしたいと云う風に思っております。

誰か:(聞き取れない)
(会場、笑)

池上委員長:それで、サイゴマイエ(?)あの、提案御座いますか? どちらかって言うと、あの、サンギョウタイ(?).....産業界的なネ、発想で書いてムニヤムニヤ。あの、企業会計的な発想で若干書いてる処あるんで、もう少しそうではない表現で書けるムニヤムニヤ。...何か其れについてあの、ご提案、御座いませんか。...それからあの、此方お聞きしたいのは、研究...此のツールを使って研究をする上で、ま、研究をし易くする為に、研究費って云うのは場合によって別枠で以てですネ、別枠でもっとムニヤムニヤ、或いは各省庁、他の省庁が持ってる様なカンジル(?)も導入すると云う様な事も考えたいと云う事を言いたいんですけど、其れ以上の事はあの、...ない。ただあの、400億と云う制限²⁵があって、で、ツールの方に鐘が掛ってしまって、結局は研究費に回す部分で云うのが少ないって事になりますと、日

²⁵ 400億円は JAXA が積上げた見積りの値であって、政府が決めてくれた天井ではない。400億円が権利だと思ったら大間違いなのではないか。更に、JAXA に配分された予算の中での競争も考えなければならないだろう。

本にとってはハンデ²⁶ですネ、云う事を此処では言いたかった。で、其れ以上ではないんです。.....ウ、ア、研究メンバの方から、何か他に御座います?

浅島:あの一、地上実験に関係するんですけど、ソイキ(?)の管制につきましても、此れやっぱりその一、皆さんの仰る様ですネエ、色んなものごちゃ混ぜみたい²⁷なんですネ。で、そうすとあの、読んだ時にですネエ、どっから何処迄がその一、まあ、謂わばISSのシステムのものなのか、そしてその一、其の事に依っての、その一、其れの準備の為の費用とか、アイイ(?)委員からも、じゃどう云う風に考え方で、此れが全部ごちゃ混ぜになってて、もう一寸ネエ、キチッと書かないと、あの一、色んな捉え方がムニヤムニヤ出来る。是非あの、機会コストと云う文章も含めてですネエ、一寸ベニアワズ(?)

²⁶ ISS 計画に参加して JEM を作ると云うのでお金を出して貰えた。其れを使ってしまったから研究費に回す金が無い。だからもっと出して欲しいと懇願しているのだろうか。良く分からない。

²⁷ 発言の本心は、「JEMの運用・維持などの為の予算400億の中から、宇宙実験及びその準備の為に地上試験を支援する資金を割いて欲しい。」と想像出来る。確かに、「研究資金が無かったら自身で別の処から調達して、準備が整ったら JEM を使っても良い。」と云う事だと、宇宙実験の応募が急速に増える事は無いと云うのは分かる。しかし、「使ってやるから金を出せ。」とは言えないだろう。また、或る人は400億とは別に、(当ての無い)何処から資金投入されるべきだと考えている。又更に、或る人は、JEM を実験に使いたい人は応分の負担をすべきだと考えている。

の方が良いかなと思います。

池上委員長: そうすと、ズッと後に書いてある表現の方が分かり易いって云う事があるんですか。例えば、7 頁以降があの一、今ムニャムニャ...8 頁か、7 頁から 8 頁²⁸に関してグラフ(?) の話とかですネエ、を書いてあるんですが.....あんまり研究費の事は書かなかったですネエ。

松岡室長: エエト、此の 7 頁の(4)の考え方ですが、そのまあ、一番最初の冒頭にあります様な、その、利用する側で主体的に選ばれると云うのは、まあ寧ろ例えばライフサイエンスですネエ、或いは産業界とか、ま、そう云った処で寧ろ必要だから選ばれると。で、必要であれば、ま、其処に必然的に、ま、お金も入って来ると。其れは寧ろ宇宙だから使えと云うんじゃないくて、ライフサイエンスは大事とかですネエ、研究の為に必要であれば、其の分野の競争の中でチャンと勝ち抜いて選ばれると云う処で、エー、スミセイソウソクシンカンサイ(?)と。ただ、中々其処に繋がらないものをですネエ、どうやってエー、その一、やって行くかと。で、其れをあの、今回先生とあの、其の辺りから外れた、一寸その一、地上の研究の支援が必要だと云う事で、此処で書いてあるのはその一、大学等が有する優れたアイデアやシーズを作り上げて、エー、此処での実験トエダ(?)の道を開く基だと。其の為にその、JAXA が、あ、グラント、まあ、配分する様な事も、まあ、考えるんじゃないかと。で、此れあの一、此れ迄

あの地上公募研究支援と云うものもありましたけど、けれあの一、そう云った意味で一寸繋ぎ資金の様な形でやっていたと。そう云ったものをその一、を、まあ、未だ過渡的段階かと思えますけれど、そう云ったものをまあ、少し考える必要があるんじゃないかなと。ただ、本格的な競争的資金てのは、其の分野の中で、機構を使わないと成果が出ないと。で、そう云ったものをまあ、あ、スクリュタテ(?) マネーテット(?) してですネ、寧ろ、トミアナトウジ(?) 技術的に選ばれて行くと云う処で、あくまでその一、JAXA 側がドフタリア(?) まあその、つなぎ資金としてですネエ、エーまあ、捨うかどうかと云うのを、ま、イハン(?) の制約もありますんで、其の辺をまあイテジスル。(?) ただ、多少その、コンサーバティブにも書いてありますけど、そう云う知識(?) です。

池上委員長: で、あの一、私のあの一、カン...ま、から申しますと、仮にですネ、ISS が継続するとしますとすれば、斯う、如何に上手く利用してくかと云うテンキュウ(?) じゃないかと云う風に考える²⁹ 訳ですネ。そうすると矢張り優秀な研究者が其処に集まってくれないと、あの一、立派な成果上がる事は無い

²⁹ 其れはそうなのだが、ISS の継続に関して深く検討しなかった事に問題がある。其処で物事の軽重を確り確認し合っていれば、「ISS の利用促進」に対する環境条件の見え方が変わって来るのだと思う。其処には様々な制約があるが、其れら制約にはお構いなしに、優秀な研究者を集める事自体が此の委員会の目標になってしまって、制約条件の見方が甘くなってしまっている。青江委員や井上委員の折角のコメントも、全く顧られなかった。

²⁸ 再編資料では概ね 6 頁の左右に相当する。

だろうと。で、そうすると、研究者にとって魅力ある様なナク(?)取ってかないといけない。先程、地上実験でとことんやって、で、あの、地上では実現出来そうもないものを宇宙で試してみるって云う様な事もあるんで、だからあの、地上実験、ア、宇宙の分野で金を出すって云うのは出来ない、非常にやり難いナって云う感じを受けるんで、で、そう云う意味で、その、研究者が研究をやり易い様な環境を作ると云う事を考えてった場合にはですネ、あのー、地上とか上とかって云う明確に分けない様な形のまあ、ジン(?)が必要じゃなかって云う事で、考えた³⁰様ですけど。...其れについて如何でしょう、私、あの、昔研究者ですから、研究所のシグナム(?)やってるんで、そう云った現実を、過去の現実を見ながら、其れはどうもムニャムニャ。

浅島:あのー、宇宙実験ではですネエ、正直言って地上実験のまあ、エエト、が、を、蓄積されてないと事実も何も分かんない訳ですネ。で、其れはあのー、其の人の何十年の蓄積があって、イワラゲンカ(?)はモト(?)、それから生命科学と云うのは、もう物凄いスピードで以て変化してる訳です。其れに対応しながらですネエ、宇宙に出て行くとなりますと、もう、研究者自身が常にそう云うものが或る面でソウス(?)されてないと、ダイグレナモピツァ。(?)ですからあのー、今此のところで言うと、こないだ向井さんが言われた様に、非常

にネ、もう一つ其処を押さえない中で、そのー、実験をした時に、宇宙の実験で云うのはそのー、機会があった時にですネエ、絶対失敗は許されない³¹って云う様なネ。ですからあのー、カイロテエ(?)100%成功する訳がないのに、研究者の、そのー、圧力とか、その、或いは精神的に重圧感、物凄いものあるんですけども、それを乗り越えてやると云う事になるとですネエ、或る面言えば地上ですネエ、ホントにデータがあって、試行錯誤したものの蓄積を持ってると同時に、どう云う場面にはどう対応するかって云う事を全部見てそれをやる訳です。ですから、此れをタホウ(?)して貰う様にしとかないと、とても上手くムクバセネ、(?)...ええ。ですから、もっとあのー、地上での実験のコウソ(?)ってのは、僕はウチュウヒキ、ゴメイ(?)たいんで、コウサレル(?)かと云う様に僕は。

池上委員長:何か他に? じゃあ...ア、どうぞ。

井上:あの、浅島先生のイウコトジ(?)に、全く其の通りだと思っんですけれども、また先程の委員長のお話も同じですけども、今の様な観点だとすれば、宇宙ステーションが特別な扱いを受ける理由は無いんですヨ。他の、さっきアレオファ(?)さん、サト(?)仰ったけれども、例えば微小重力環境と云っても回収衛星って云うやり方もあり得るでしょうし、其の事あって、その、やっぱり、ソコカン(?)だけで行った時に宇宙

³⁰ 宇宙で確保した資金を地上実験に回す事は難しいと云う様な発言に続き、「地上と宇宙を明確に分けない」と言うのは何なのだろうか。矛盾が整理し切れぬ儘で放り出してはいないか。

³¹ 分かる気がする。宇宙は高くつくので失敗はしたくないのは分かる。然し挑戦すれば失敗の可能性を消せない。実用衛星と技術試験衛星を同一視される方が多く居る事は事実である。

ステーションをリユシュツ(?)する理由はやっぱりない訳で、其処には外の、要するにさっきの、国としての基幹技術なり何なりって云う、他の観点でのエンケイ(?)があって、そう云って然も、其処は、間違いなく此の間新しいものが生まれる可能性ってのは見えて来ると云うのが、其れだけの事があるんだと思える処で、その、コストって云う言い方であの、利用って事のメリットだけを言おうとすると、其れはやっぱりどうしても限界があって、と思います。ですから、さっきのグラントだとか何とかって云うのは、やっぱりあの、確率(?)の観点で、若しそう云う事をするなら一辺(?)検討が、研究者側の検討があって、で、あの、もっと広い観点で ISS を一つのツールとして使うグランデナカナイ(?)って、広い観点での整理をした上でやってく様な事をしとかないと、あの、どうしても片手落ちみたいな形になる³²と思うんです。で、此れあの、十分気を付けて行くと...

池上委員長: はい。あの、確かに、確かに其れを含めて、あの、宇宙ステーションを使わない科学者、研究者について言うと、

³² 全く其の通りであって、ISS の必要性の最も大事な部分の議論を省略したので、何で ISS 利用促進を考えて居るかと云う事の根本から外れてしまう。最も大事な部分(有人宇宙活動を支える技術の習得)の費用を削れば、自分達の専門分野にお金が流れて来ると思っている様な発言に聞こえて来るのである。向井委員の希望されている宇宙医学は有人支援技術なのであるが、其の説明が全く無い儘に自分の分野へのグラントを切望されて居る点が残念であった。

此れは魅力ない³³。で、今、国として、斯う云う設備をネ、作った場合どうするかって云う風に、其のテーマ選定については、アー、そう云う様なハンデを与えないでやった方が宜しいんじゃないんですかって云う提案だと思っんです。あのー、一般の研究者ムニヤムニヤ。要するに何故そう考えるかって云う、まあ、あの、何かご意見御座います? 当然宇宙ステーション使わない人にとっては、あの、ムニヤムニヤですけども、此れ何も決まってるんじゃない...

廣川: 宜しいですか、あのー、...先ずあの、其の前の浅島先生が仰った事は全く妥当だと思います。ホントに。で、宇宙環境をジョジベック(?)にあの、ベースとしたプロジェクトが最優先されるべきだと私も思っんですネ。それならば、あの、一般の人がムニヤムニヤ。例えば、此処に書いてある、キュウオクエイコ(?)を作るのは他の環境で作る事は出来るのかも知れないけれども、まあ、此処に書いてない、後で言おうと思ったんですけども、宇宙空間での放射線の暴露って云うのはネ、此れは恐らく何処でも出来ないと思っますネ。だから、長期的に考えれば、宇宙医学の処に「放射線防御など」って書いてありますけども、斯う云うまあ、割に斯う応用科学的な意義じゃなくても、遺伝子レベルで斯う云う非常に特殊なですネ、宇宙空間に生命体が行った時に、あの、どう云う事

³³ 「確かに」と言いながら、大切な半分が無視されてしまった様に感じる。ISS を利用する科学者を優遇し過ぎると不公平である事にも井上委員は触れたのだが、大切なのは国としてISSに取り組む目的(戦略技術の習得)が別に有る事なのである。

が起こるかって、これは非常に長期的に大きな問題³⁴だと思います。そして当にあの、宇宙空間にしかサイシュカンデ(?)でないと思います。と云うのが一つで、

池上委員長: ああ、そうですネエ。

廣川: まあ、寧ろ此処にですネ、生命科学の遺伝子発現の重力影響って、重力だけ書いてあるんだけど、此処んとこやっぱ、もう少し放射線の影響とか、そう云う観点入れた方が良い³⁵。

池上委員長: は、ハア。ア、ア、ア、ア、分かりました。其れは、其処まで十分、あの一、書きこんでないと云う事は、ムニヤムニヤあ、5頁の処に入れる様に……他に?……で、あ、一寸もう一つはその、あ、国の、或る意味では新しい斯う云ったヒネカンマルタ(?), スプリング 8 と同じなんですけど、あの一、設備があって、で、其れを上手く使って欲しい訳なんですけれど、其れに対する支援をどうするかって云う事³⁶で、ムニヤムニヤ。ま、あ、で、あ、実はアメリカの例として、ド、NASAの方が打上げ、研究者がある研究をしようと

³⁴ 遺伝子を扱う研究者にとって面白いのは認めるが、宇宙医学は宇宙空間で人間が長期滞在する上での問題点を解明し、対策を考えるのが目的である。其処には宇宙の予算を投入する意義があるが、遺伝子の研究には投入しないだろう。

³⁵ まあ、此れは受け入れても良いだろうが、あくまでISSの一般利用者の中に分けられるのだろう。それにしても、此の特別委員会が、我が田に水を引き込む競争の場になって、嘆かわしい。

³⁶ 議事の主題がすっかりISSの利用促進になっている様に、参列の特別委員が感じるに違いない。

た場合に、打上げ等に関してはNASAです。それから研究所の方についてのファンディングって云うのは、未だ確かには多分決まってないんでしょうけど、NSSとかですネ、或いはNIH或いはDARPAが其れを持つ³⁷と云う様な仕組みを持つと言ってる訳ですヨネ。で、今、あ、此の儘ですと、未だ其処まで議論は、あ一、ムニヤムニヤ。そう云う事です。……要するに、日本の研究者に、そのまあ、或る意味じゃあハンデを与える³⁸って云う事で、色々ムニヤムニヤ。で、もう一つは、矢張り優秀な研究を集めるには、ア一、ムニヤムニヤあった方が、あ、矢張り、最後は研究…人…の、人で決まる訳ですから。で、エ一、そう云った様な事も考えて置かないと…使う…初の研究ジャクズ(?)と云う事ですネ、ムニヤムニヤ。

浅島: あの一、終わりの方が、あの一、後の方がジョセエ(?)。あ、あ、色んな意味で、その一、日本全体の科学力を推進するとか、そう云う意味で書いてあるんですけども、その、個々の事について言うと、例えばその一、まあ、先程エエト、ナナバメン(?)のイケング(?)出したとかネ、夫々どう云う考えでム

³⁷ 何処が資金配分するかが大事ではなく、どんな研究に補助金を出すかが要点で、相応しい組織に選定させるのだと思う。

³⁸ 危機感を煽る言葉には騙され易い。「宇宙空間を利用する日本の研究者にハンデを与える」状態を解決しようとする、「宇宙空間を利用する必要の無い日本の研究者にハンデを与える」事になるかも知れない。必ず何かの影響が出るが、其れが全く無視されている。

ニヤムニヤ。ですから例えばその一、まあ、エエト、ゴロシャ(?)のミヤジマン(?)とですネ、それから環境省も入れて、それからあの、まあ、通産省も入れて、或る面で言うと、そう云うジョキカラモッテキカン(?)との、その、経験をネ、JAXAの方で詰めて行って、その、ホントに日本全体がツメテ(?)行くと云う、その、キカイ(?)が、そう云うものを矢張り示しとかないとですネエ、或る面で言うと、ショウデナケテヘベエ(?)って云う風になりがちなんで、兎に角仕組みを変える。

池上委員長:で、今仰った話はですネ、一応此れあの、評価と云う風に見ましてですネエ、あの、**評価の為の新たな枠組みを検討する**³⁹と云う中に入れた心算では居るんです。その評価って云うのは、事前評価、中間評価、事後評価、技術移転。で、あの、事前評価ってのはテーマ選定。で、そのテーマ選定にあたっては、方向付けとか、そう云う事も含めてムニヤムニヤムニヤ。...はい、どうぞ。

松浦室長:あの、今浅島先生仰った、その、**理研以外、他省庁も含めてですけど、今のはその一、まあ、未だ理研とJAXAがしたのはフィージビリティ・スタディと云う処ですけども、ま、其処での経過と云うものが或る程度その、或いはダイコ(?)と云うものが出て来れば、具体的なその、スタディ広げて行く様な仕組みって云うものを、具体的な検討が出来る。で、**

³⁹ 3頁[A・ISS・「きぼう」の利用]の【提言】の下の部分。

「新たな枠組みを検討する」と云う事だが、今迄の何が問題で、どんな事を実現させる為に枠組みを変更するのか、其の様な議論が行われた記憶は全く無い。

今後理研以外にスタンソン(?)して行ける可能性って、そう云う意味⁴⁰でして、エー、例えばあの、理研も今、理研全体としてなってますけども、寧ろその分野に閉じた様なですネ、仕組みって云うのは出てくるかも知れないと。で、まあ、ライフサイエンスとですネ、再生医療と、そう云った分野でムニヤムニヤ。或いは今度ですネ、材料とかそう云った面であの、別の機関との提携ですかですネエ、あの、ナノテク分野はどうするかとか、そう云ったものは、ナノテクなんかは筑波では、あの、産総研ムニヤムニヤ出来ると言ってますので、エー、十分にその一、此の理研のやって見た結果を見ればですネ、カバー出来るものムニヤムニヤムニヤムニヤですネエ、具体的な、あの、一つの課題を洗い出してムニヤムニヤ。ただ、未だ、今の段階だと単にムニヤムニヤ。受け手側がその準備が出来てないと云う、どう云うものが課題なのかも分からない、其処は寧ろやって見てムニヤムニヤと云う事をムニヤムニヤ。

浅島:あの、もう一つ、此れはショウヒン(?)ですネ。やっぱりその一、理研の場合もですネエ、3年位前から、その、或る意味ではその、ハイッタ(?)。で、最初にその、シンポジウム開いたりして、そんな事やって、ようやくその斯う云うネ、ウツレ

⁴⁰ 池上委員長がISS利用促進を急ぎ過ぎて居るのか、文科省が急ぎ過ぎて居るのが、どちらが原因なのかが分からなくなる。理研と一緒に始めた共同の仕組みが未だ実際には始まらない内に、同様の仕組みを他の省庁の管轄機関にも広げると云う宣言が出来るのか。日本がISSの5極の一つに確り食い込んでいる事の評価が出来て居ない為としか考えられない。

ル(?)様になったけども、そう言う意味で言うと、その一、そう言う考えとしてネ、バツガオカシガナイト(?)結局その一、理研がそう言う事やろうとして、やっぱりその、少々の、モストイロランノ(?)それから、国際性とか、或いはその、スタスソソネキテ(?), その、マステカ(?)の可能性って云うのは物凄いその、力を持ってるんです。其の人達がどうしたら入って来れるかと云うと、やっぱり、あの、イキ(?)を見てからウム(?)ではなくて、やっぱり並行してやるベチッテ(?)を取らないと、あの一、コウイチ(?)はネエ、ヒガラクガン(?)で、あの一、エエト、其の辺はやっぱりコリトリ(?)しないと、ナム(?).

廣川:あの一、現状がどう云う風な形で進められてるかについて、私、余り知らない訳で、少し見当外れな事を言うかも知れませんが、私が考える此のプロジェクト、特に生命科学関係のですネエ、或いは宇宙医学をミカベツ(?)して、此れはドンドンやっぱり、将来の事を考えると、育てて行かなきゃならない対象だと思うんですネ。其の時に、あの一、やっぱりトップダウンだけでは非常に限界があるし、ホントに此の研究者がボトムアップでネ、やりたいと思う、何て云うのか、インテンションがある様なものを吸い上げて行かなきゃなんない⁴¹んで、

⁴¹ 生命科学と宇宙医学の分野に限って言えば、此处で言う「ドンドン」の程度を議論する事が最も大切であるが、其の様な議論は全く無かった。其の後の方法論には問題が無く、当にISS計画発足から研究者を集めたのは其の方法であった。「ドンドン」が行き過ぎた前例がアポロ計画で、アポロ計画で集められた人材が大

それこそまあ、浅島先生が言って居られたのが、僕は良いと思うんですが、あの、オールジャパンでネ、あの、謂わば極低領域(?)とか、そう云うグループ、そう云うあの、宇宙医学何なり、或いは生命宇宙科学とか、そう云うその一、プロジェクトグループを先ずまあ。コマ(?)は、オスカルミ(?)かも知れないけれども、あの、作ってですネエ、其れあの一、色々な省庁にまたがるって話で、然し、公募ですネエ、やりたい人をドンドン入れてくと。で、其れで進めて行くと云うのは、一つのやり方じゃないかナァと思うんですネ。或る一定の数を理研にムニヤムニヤ、又連携を結ぶからやりませんかって云う話を持ってくよりもですネ。

松浦室長:其の点もあってですネエ、その、(4)の最初のパラ、3行目位にある「一定規模のマスで存在するコミュニティ」⁴²って書いた訳ですネエ。此れまではその、JAXA が一所懸命努力してコミュニティを広げる事をやって、それであの、徐々に徐々に斯うなって来た。其れをその、更に大きくして行けばですネ、あの、寧ろチャンとその一、評価とかそういうシス

勢行き場所を失った。ISS計画を国際協働にした狙いは其処では無いが、米国の計画概念が膨らみ過ぎるのを抑える効果が出ている様に思える。当初のISS概念の中でJEMは矮小な、箱庭のようなものであったが、与圧と暴露の実験どちらもが出来るものだった。然し、出来あがった現在はISSの中の大きな割合を占めるモジュールになっている。日本人の自製の感覚を米国人が学び取ったので、米国の担当部分が小さくなって来たのかも知れない。

⁴² 再編資料では6頁左欄のほぼ中央にある。

テムに入れても、かなりチャンとしたものが出来る⁴³と。まあ、今迄の努力を大きくして、で、やっぱり規模を確保しないと、やっぱ、サッチャダ(?)ですネエ、エエト、繋がって行かないのではないかと。で、其処でやっとその、出て来たのがホントの制度としての仕組みで、此の様に実験が出て来たと言う事で、あの、浅島先生が仰った通りですネ、もう、次の実験を並行してやって行ったら良いんじゃないのかナと仰った通りですので、あの、取って来てからと言う訳じゃなくて、もうフリオルノコシテ(?)ですネエ、で、そう言う一定規模の枠をですネエ、早くムニャムニャして行くことができますネエ、ムニャムニャ。

池上委員長:今の話はですネエ、今あの、文科省のあの、連中と話をしてるんですけど、難しいんでしょうか。我々にとっては簡単なんですネ。

誰か:常識のネ。

池上委員長:そうです。ですから例えば、あのー、ブラン(?)関係も浅島先生とカラキ(?)さんが、仲良くやる様にして、集まるイチ(?)やりましたネ。ま、其れがきっかけになって色々ムニャムニャ。ただ、其れイッチシテ(?)其れをサポートするかどうかって言うと、矢張りタツ(?)としては自分のあのー、上の省庁にイッキ(?)するってな、まあ、ですネ。ムニャムニャ。オンカツサイタル(?)が、中々難しいんで、其れで実は

研究者の方ですネエ、自分のおやじの言う事聞いている方が楽じゃないかって云う面がありません?... (暫し無言)...だから、其れは寧ろ科学技術政策全体の問題であって、総合科学技術会議も中々方針を出すのムニャムニャなくて、まあ、戦略本部が出来てから、本来戦略本部がムニャムニャ事ですが、方向は出せるムニャムニャって言うと、中々其れを、何て言うか、インセンティブって形ムニャムニャって云う感じを受けるんですが、矢張りそう云う場合は一寸ボトムアップでやるか、或いは産業界と違うティア(?)が、アプローチって云うか、ムニャムニャ。

廣川:まあ、其れはでも、近い将来って言うか、そう云う方向に持ってかないと、此れやっぱり国家事業ですから、あの、それこそあの、成果でアタシ(?)ちゃって、あの、素晴らしい形で発展させる為に⁴⁴は、.....そう云う仕組みを、あの、...

池上委員長:あのー、又此処へ戻って議論はしたいと思うんですが、あの、済みませんが、あの、次はあの、ムニャムニャ。ハンシャシテル(?)

井上:あのー、今、話されてる様な事って云うのはもう、当にあのー、ISS についてだけではなくて、宇宙空間を使ってくるのはムサシノ(?)先生がさっきから仰ってる様に、或る程度の敷居が、準備が必要だと、敷居が高いものがあるって、ムニャムニャ色んな処であの、其れがフマイ(?)インゼンタイゾウ

⁴³ 今迄 JAXA が行ってきた宇宙実験・研究者の拡大に於いて、何が問題で何が良かったか、全く言及が無いのに、漠然と「一層の拡大」を唱えている。何をどうするお考えなのか分からない。

⁴⁴ 宇宙実験が国家事業であると言う認識の様であり、ISS 計画に参画すること自体、及び宇宙有人活動を支援する為の技術習得が国家事業であるとの認識とは違っている様に感じる。

(?)を持って直ぐにとっ掛れないって云う様な処に...あの一、つまり、今迄は其れを専門として、宇宙空間に行かなきゃ食ってけないって云う人達が一所懸命やって来て、其れが地上もやり、宇宙も使い、新しい展開を云う途端に、地上でやってるのと同じレベルで宇宙がやれる様になってかないと宇宙が広がらない訳ですネ。で、其処はやっぱり、かなり支援を確り作らないと、次へ展開出来なくなるって云う事だと思っんです。其処はあの、今の省庁なんかって云うと一寸違う、横断的に或る種の支援、技術的な支援が確りやってける様な組織を一寸作ないと、一寸此れとは話がずれますけれど。で、そう云う大きな枠組みの話は一寸別にちゃんとやらなきゃいけないって云う事はどっかに書いて、其れは其れで終わる、一寸あの、あんまりそう云う処に、此れISSに特別に何かって云う言い方のものはあんまり作られない方が、あの、少なくとも研究者のコミュニティに対してはあの、使い易くなるんじゃないかと。

池上委員長:ア、有難う御座いました。で、何れにしてもISS色々やる事に依りましてネ、大きな成果が期待出来そうだと云う事については宜しい⁴⁵ですネ。其れ迄はムニャムニャですヨ

⁴⁵ 国民一般大衆は其処に疑問を持っているのではないか。「注ぎ込んだお金の額に対して得たものが少な過ぎる。」と言われていたのではないか。其れを委員の間で納得し合っただけで良いのか。此の「国民の疑問」に応える唯一の道は、宇宙5極(4極であっても良い)の一員であり続ける為の投資で、国家安全保障の為の戦略技術を維持・発展させるとの説明だろう。

ネ。で、先程あの、ホシイシキコウ(?)として、此れ、正直申しますと、アメリカと同じレコット(?)で色々議論すると、斯う他所から入って来まして、ドナツタ(?)日本には馴染まない入って来る、正直入って来たんですが、あの、却ってミンジマ(?)混乱するって云う様な、あの、一寸其の辺、日本人カイト(?)行きたい。又此処へ戻ることに、事をあの、致しまして、次に進みたいと思っんですが、多分此の後はですネ、其れ程問題は無いと思っんですが、9頁⁴⁶をご覧になって頂きたい。で、「有人技術」それから「宇宙探査」についてと云う事で、あの一、ムニャムニャで、大変あの一、コケント(?)して居りませんが、ムニャムニャ。で、此の「所見」の方はワタリト(?)議論して来て、あの一、斯う云う事になりました、或いは斯う云う様なアート(?)、議論を進めて来た訳ですネ、我々のキ(?)ま、きつい言葉がありまして、其れに対しての「提言」...(暫し無言)...で、此れジュウニシノク(?)あの一、我々が、議論した以上にですネエ、此れ全体の雰囲気としてですネエ、HTVの...その一、まあ、改良計画ですか、が、あの、斯う、表に出た様な形になってはいますが、此れ、我々よりはあの、...我々の前にも、スレデボ(?)前に行く事になってる。ムニャムニャ。

鈴木:あの、まあ、私はその一、基本的には斯う云う考え方で良いと思っんですけども、一つ注文と言いますか、あの、ハッキリ

⁴⁶ 【B. 有人技術・宇宙探査】の事。再編資料では6頁左から始まっている。因みに、今迄の開発で得た技術の記述と、其処に投入した資金に照らした評価は全く無い。全てが今後の課題である。

させておいた方が良いでしょう、あの、矢張り斯う、長期的な話をして是非入れた方が良い。そうジャン(?)と、「今はこれしかできんからこれやって下さい。」じゃなくてですネ、もっとやっぱり長期的な見通しの下にその、HTVの改良って云うのですネエ、あのー、長期的なウケンケカッテ(?)やる意味をって話を入れた方が良いと思います。

池上委員長:イ、イ、一応其れは、書いてはいる心算なんですヨネ。

松浦室長:あの、11頁目の上から二つ目の⁴⁷の処で、回収よりは早くやる、そう、あの、回収の方でやると言う上で、「更なる発展が期待されるHTVを」何のかんのと書いてある所でして、「HTVの発展を含む宇宙輸送系の長期的な技術開発戦略を検討する為の場を早急に設置し」⁴⁸で、議論をして頂く。で、まあ、其処はあのー、長期的に書いてやること。

鈴木:あの、そうなんですけども、見る人は此の、括弧の中、四角

の中しか見ない人も結構居ると思いますんで、そう云う主旨なんです。

池上委員長:あの、此の括弧の中ではですネエ、あの、「提言」の2の方に「HTVを含む日本の宇宙輸送系全体の開発計画」ア、此れゾウキュウジュツ(?)あんま書いてない。ア、此れ長期なもんで云う心算で書いてある文なんですヨ。それから、後、「更なる長期展望として、」と云うのは、取敢えず現在の無人の惑星探査と云うムニャムニャ。「共有する雰囲気醸成すべきである」と、斯う云う表現については、ムニャムニャ此れで良い?... (暫く無言)...はい、どうぞ。

田中:あの、私、ムニャムニャですが、あの、此方のそのー、基本的に此処に書いてある事は先ず賛成ですし、少し前に出られたって云う、其れで私は嬉しい⁴⁹(?)んじゃないかと云っ

⁴⁷ 「(2)HTV...発展」の三番目の、再編資料8頁右欄最下部。

⁴⁸ 此れでは「宇宙輸送系の長期戦略」はHTVの発展、即ち回収技術の付加と人員輸送に殆ど限定されてしまう。此の様な文章で「含む」と書けば、「中心として」と言っているのと同じである。其れも一つの選択肢であるが、外に、デブリ削減の為の技術開発、原理的にコストを1/10にする様な新しい推進技術、其れに伴う輸送用機体の新たな概念の研究など、極めて沢山のプロジェクトが考えられる。其れらの内、どれが優先されるのか、じっくり研究して頂きたい。此の文章から感じ取れる技術開発プロジェクトは、既存技術を集約させる力技の様に感じられる。

⁴⁹ 前進する事は自動的に良い事だという論法は好きになれない。正しい方向に適切な速度で前進しなければ、自信を持って「良い事」とは言えないと思っている。宇宙活動の内の幾つかは日常生活に溶け込めて居るものの、左程多くはない。ハイビジョンTVは地上波では視聴者数が少な過ぎて成り立たないが、衛星放送でなら成り立つ事、気象衛星が実用化されて富士山頂のレーダ観測が終わった事、偵察衛星が沢山打ち上げられて米国の偵察機(ジェット機)が作られなくなった事、その他...。次に宇宙ステーション(宇宙工場)の時代が来ると言われると、「はい。」と答える自信はない。其れよりも、火星移民とか宇宙太陽光発電所の方に可能性を感じる。勿論近未来に実現するとは思わないが、宇宙で実現すると地上の何かが消える様な宇宙活動が本物だと思う。

た。あのー、やっぱり、まあ、若し此の箱の中に、若し、斯う、あのー、稍若干気持ち的な事で言うと、此の後の方に書いてある事で言うと、やっぱり此の、宇宙輸送システム、輸送系って云うのがホカンノ(?)あの、基幹技術にあると云う事を、此方の箱の中に入れて頂いた方が良いんじゃないかと云う感じがするんですネ。ただ、宇宙ステーションの話だけでなくて、結局 H- B と HTV って云う此れを...此れは...そのー、日本の宇宙政策ん中に此れやっぱり国家基幹技術としてキーになって、其れで然も有望な...云う、そう云う側面を少し...あの、示して⁵⁰行く。

池上委員長:はい、どうぞ。

浅島:あのー、此のイチチツイン(?)ですけども、此れあの、ま、表現此れで良いんですけども、何故ネ、エエト、此の HTV について少しネエ、ほかああのー、参考でも良いから、説明しといた方が良い。つまり、6トンの大きさがあって、あれだけ

其処で、火星移民が未来の主流であれば宇宙有人活動の支援技術を開発する事が優先され、宇宙太陽光発電所が本流になるのなら、無人機の打上げ技術を前進させ、徹底的にコスト削減を目指す事が優先される。其の選択を、今、決断出来る人は居ないのではなからうか。従って、絞って前進するのではなく、八方睨みが宜しい。

⁵⁰ 其れを書いてしまうと、「宇宙輸送系に於ける次の最大の課題は有人化である。」と宣言してしまう事になる。注 48 に示した様に、宇宙輸送系の課題は多様であり、ISS の都合で其れを狭めてしまう事は其の権限から逸脱した行為である。失礼である。

輸送能力を持って、その、行けるの無い訳ですヨ。で、センカ(?)其れを補助してるそのー、H- B も含めてネ、日本の科学技術のその、グチャグチャた時に、あの、其処に持って行く技術が、あれだけの世界に誇れる技術が今在ると云う事なんで、其れをツカイテサシテカルンデ(?)ネ、エエト、ジカンイッポトン(?)に、其れを更に改良する様なシステム(?)集めて行けば、或る面で言うと、大きな広がり、産業的にもデズオ(?)。そう云う事をネエ、あの、イツズン(?)してネエ、もう一寸此れはあのー、此れ位の大きさで以て、外のものとは違うんだと云うとこをネエ、明確にネエ、示しとかないと、あのー、外から見て分からないと思うんです。

池上委員長:はい、はい。分かりました。あの、事務局ドイッチャ(?)良いですヨネ。.....何か他にありませんか。.....此れあのー、更なる...「更なる」と、此れは如何で御座いましょう。ムニヤムニヤ、更なる長期展望として、あの、惑星探査ムニヤムニヤ.....で、此れはあのー、例のあのー、林(?)さんが書いて来ました、此れは国民全般、或る意味でと云う。そう云う様なカンジョウ(?)を与えるって云う様な事を考えた、其れも配慮した上で、マリネジン(?)としてですネエ、惑星探査について、今迄或る意味では議論がタブーだったって云う感じですが、ムニヤムニヤ、斯う云う風になってる。

誰か:いや、別にあのー、テイギ(?)は宜しいんです。

池上委員長:山川さん、何か?

山川:あの、ナギアト(?)仰る様に、此れで結構なんですけど、「共有する雰囲気醸成すべき」って云う、ま、当然、ISS に

携わってる人達は、宇宙開発全体を見つつ、そう云う事を考えて行くべきだと、私は思って⁵¹まして、何故って言うとISSにその、400億と云う非常に大きな割合を占めている訳です。だから、あの、ま、表現は良いんですけど、もう少しストレートに会といたら良いと思います。

池上委員長:じゃ又、あのー、相談をしながらですネ、ムニャムニャ。.....それでは又あのー、何か御座いましたら戻る事にしまして、次に12頁、「宇宙産業振興」...此れあのー、私もですネエ、あの、企業の3人の社長ムニャムニャ色々、まあ、内輪の話をし、そう云う意味ではかなり長くしたんですが、ま、彼等が話した内容に基づきまして、で、エー、其れに対して、エー、日本の(?)タンゲン(?)で云うレベルで考える上でもISS計画と云うのは、まあ、大きなムニャムニャ。

山川:ヨウソウキ(?)ですネエ、あのー、(1)の(エ)ですかネ、「優れた人材の採用と、他国と共同作業が出来る人材」って書いてますけど、「共同作業が出来る」と云う表現が、此れも

⁵¹ ISSに携わっている人達は、ISSでのサービスが充実する事を歓迎するのは当然であるが、其れは「歓迎」であって、「考えて行くべき」と言われると反論したい。何かを犠牲にしている事を忘れてはならず、青江委員、井上委員の指摘の様に、其れらは適正なバランスの上で行われなければ長続きしない事に気付かなければ、一時的に良い思いをしても後で極めて惨めな結果に遭遇する。宇宙の他の分野、広く他の分野に犠牲を強いた上に、自分の分野の後輩たちに多大な迷惑をかけるのである。良く解って居ない宇宙輸送系について、余計な口出しは控えた方が良い。

非常に弱いと思ってまして、まあ、例えば「国際協力を推進できる人材」...そう云う風を書く方が良い⁵²のではないかと思います。

池上委員長:他に何か御座いますか?

鈴木:2)の(イ)なんですけども、あのー、此れあの、「先端技術の散逸と国内中小企業の空洞化」ってありますけど、あの、国内の中小企業だけでは、やっぱり一寸表現が弱いんじゃないかと思います。此れは日本のその、技術基盤を支えてるあの、中小企業とかですネエ、其れをキチッと書いておいた方良い⁵³んじゃないかなと。

池上委員長:はい、どうぞ。

⁵² 極めて適切な助言であるが、心に描いているものが適正か否かに不安が残る。「国際化の世の中になったので、其処で対等に発言できる技術力と語学力を持った人材が重要になった。」と云う考え出れば失望である。「重要な技術を一国だけが保有する事は、その他の国々の国家安全保障上の危機であるから、どうしても避けなければならない。」と云う事が国際的相互理解になったので、「自国の国家安全保障の根本原理を理解し、国際協働の場で適切な判断が出来る人材が必要になった。」と云う考えであれば安心である。

⁵³ 改定の方角としては好ましい助言であるが、本質を外している。企業の大小を問わず、「我が国の基盤を支える技術を有する集団を維持発展させる」事が重要であって、其の様な技術は大企業にだけ存在するのではなく、中小企業まで含めて考える必要があると云う事である。企業の大きさではなく技術の種類が問題であって、其の主体の間違いを指摘する方が良かった。

森尾: 余り、此処で委員、言っちゃいけないのかと？

池上委員長: 大丈夫です。構わないです。

森尾: 此れ全体の、此のCの処がネ、全体のサン(?)のキテイテナ(?) 此処の会議に出して頂いた、所謂最終アッセンブルって言うんですか、ロケット作るとかイムキョク(?)を作る、そう云うあの、サンドウ(?)から視点と云うものが来ると云う風に。あの、日本としたら必要な、宇宙産業のものの振興を託されているのは、そう云う企業を支える中小企業、デバイスだとかコンポーネントです⁵⁴ネエ、そう云うものを作ってる産業をもっと育てるって言うかですネ、あの、後の方にも出て来ますけど、あのー、年間250億円をH- Bとかに使ってるから良いんだとかネ、マツマエダイア(?)すればオカシ(?)じゃないと、斯う云うのは非常に末梢でして、250億のロケットH- Bを作る中で、どれだけ国内産業から調達出来るのか、其処をどうやって、今迄後5年間だったものが10年以上続くと云う事になる訳です。そう云うものが提供できる中小企業、技術を持ってる処をどうやって育てるかって云う、そう云う視点が一寸弱い⁵⁵様に思うんですネ。其れをしない

⁵⁴ 此れも主客が転倒した論理である。「先ずは大企業が担当している宇宙活動を支えるインテグレーション技術が肝要であり、其れを下支えしている部品を担当する中小企業にも視線を注ぐ必要がある。」と云うのが正確な表現だろう。あくまでも注目すべきは企業の大小ではなく技術の種類である。

⁵⁵ 間違った事ではないが歪んでいる。国産化率が高い事は良い状況の現れではあるが、国産化率だけで判断してはならない。戦

と、産業育成って云う事は出来ないんじゃないかと。

池上委員長: あの、森尾委員の、常に主張されてて、其れをムニヤムニヤしたいって云う風に。デバイスについては、あのー、ゲンリュウノ(?)...飛行機の世界ですネ、ムニヤムニヤ。最近ですと i-Pod の部品は、殆ど日本の製品では無くなっちゃったムニヤムニヤ。ま、そう云う事を含めて、デバイス、ムニヤムニヤムニヤムニヤ。

鈴木: あの、今の視点なんで、其処にドウカップ(?)はその、輸入あの、一寸難しいかも知れませんが、日本のあのー、ホントに今あのー、森尾さんの仰った事はホントに実感ですネ、まあ、其れ、繰り返しになりますけど、先程ですネエ、ロケット対しても、H- の時も全部国産でやろうと云う形で、全部国内にそう云うルーツは全部、あの、根は全部ある。大体そう云う様な事をゼンツウ(?)するの、非常にそのー、強いところで、そう云う事が出来る国は殆ど無いと思うんです、恐らく世界中に。だから、此れを維持してくって云うのは非常に重要な事なんで、ま、そう云う意味で、あのー、其れを矢張り維持してく事は大切だと云う事で、まあ、どう云う表現するかは別としましてですネ、あの、ホントに其れはもう、非常に重要な視点だと思います。

略部品・戦略技術の国産化率100%を常に狙い、維持して行く事が肝要である。輸入を続ける事に何の不安もないのなら、其れを国産化する事に労力を注ぐのは宜しくない。国産化の必要性、対応の緩急を見極める事が重要である。

池上委員長:あの、ゼンハン(?)にしましてネ、2)の処⁵⁶なんですヨネエ。サイエンスは、リンジ(?)企業の維持管理を提案して来るか、ムニャムニャ。此の更に一寸ありまして、あの、日本が例えば ISS 止めてもですネ、其の時他の国がやった場合に、多分其の国が当然日本企業をイギヨウオケナイ(?)と云う話だと僕は思います。で、日本の企業も自分の会社の事を考えると、日本の為にはムニャムニャ、外国と、オー、ISS イカイク(?)なもの色々ゲンダック(?)につきましての、云う事に対して産業界としては非常に心配でもある。ムニャムニャ。で、これはまあ、企業の方がそう言っていると云う事を其の儘書いている事になるんです。何か此れについて、田中先生。

田中:あの一、まああの、或る意味でその、安全保障に関係する様な感じもするんですが、唯その一、今、あの、委員長仰った様な主旨だと、常に国の安全保障と産業空洞化でジレンマが生じると云う事には必ずしもならないんですヨネ。だから例えば、ISS を日本がやらないと云う風になった時に、日本の企業が、エー、要はキョウリツ(?)、相手国に行く訳ですヨ。ですから、あの一、恐らくあの一、何て言うか、日本の企業が協力する相手が例えばアメリカであるとか、其のヨーロッパであるとか、て、云う事であれば、通常の狭義の安全保

障とのジレンマは生じない⁵⁷ですネ。産業力と云うのはミジンカ(?)してるか知れませんが、あの一、エー、で、まあ、だから...直ぐ...必ず、何てんでしょうか、その一、エー、あの、オウツテ(?)協力すると安全保障の問題になっちゃうって云うのは、若干言い過ぎだって云う感じがしますネ。

池上委員長:今の点で何か?

廣川:今、あの、此の点ですけれども、あの、此の文章だけを読むとですネエ、中々意味が分かり難い。あの一、池上先生がお話になったバックグラウンドを聞いた上で、あの、なら分かるんですけれども、何らかその一、要するに ISS 計画延長が実現されないと...その一、と云う様な事がバックにある訳ですネ⁵⁸。

池上委員長:ええ、ええ。

廣川:だから、其れをどう読むかって云うか...其れが...

池上委員長:で、其れは、一応あの、彼等が、企業の方が斯う云う言い方をしたって云う事なんですヨネ。

廣川:ハァー。

⁵⁷ 言っても始まらないから言及を避けたのであろうが、技術輸出に於ける国内の法律は整備されており、欧米との摺り合せも出来ている。其の法律に従えば、狭義の安全保障は考慮した事になる。法律そのものに問題が無い事は無いが、其れはまた別問題。

⁵⁸ 「ISS 計画の延長が認められないと宇宙産業の将来に打撃を与える。」と云う意味で発言されて居るなら間違っている。ISS であっても違うプログラムであっても、継続的に資金提供して頂く事を期待している。

⁵⁶ 良く聞き取れなかったが、【C. 宇宙産業振興】の【所見】の「2) ISS 計画延長を要望」の(ウ)と云ったらしい。再編した資料では 9 頁の右欄中程になる。

池上委員長: ええ。で、と云う事で此れ、タイトルって云うか、ムニャムニャ。余りにも大きな事をムニャムニャ。其れは其の通りだと思えます。...此れに関連して?

井上: まあ、関連してると思うんですけど、あのー、やっぱり今回あのー、産業界の社長さん方が仰った、2)のところですネエ、計画延長してるって云うロウゴ(?)って云うのは、別の見方をすると、日本の当に宇宙機器産業についてこうだと思うんですけど、其れが「きぼう」を含むキチッとシタラ(?)を持って動いて行った時には、そのー、**長期的にキチッと或る量が、企業に仕事が生まれる様な格好で動いてないと、もちませんヨと。**で、其れ、今は其れがISSしかないので、ISSを特に言ってるって云う事でもあるし、仰ってる事だと思うんですヨネ。**だから、そう云う意味でも、やっぱりISS...其れについては必ずしもISSである必要は、必ずしも無く⁵⁹**て、今は、此れ或る意味で此の今回、2016年から2020年にISSの延長って云う事を、此処で或る種の方角を出すって云うのは、国として其れだけお金を用意するって云う事を或る種約束を強いる事ですので、此のコトイマタ(?)で、或る意味では、ムニャムニャ。でも、そう云う意味で言うとその、国として産業界を育成して行く為にはどれ位の規模の物が動いてなきゃいけない

⁵⁹ 言い難そうに発言されており、意味が掴み難いが、適切な助言の様である。【C. 宇宙産業振興】の為に「2) ISS 計画延長を要望」すると云う論理は成り立ち様が無い。他にISS計画を延長させる正当な理由が存在すれば、ISSを宇宙産業振興にも寄与する様に運用して行く事は吝(やぶさ)かではないだろう。

かって云う様な事が、ホントはアゲイ(?)にあって、で、其処に、当にサアシガゲッテノ(?)ありますって云う風な、そう云う論理で云う風にしとかなないと、此れ一寸なんか、駄目になると駄目ですよって云う言い方に、一寸もっと大きい言い方に、...(遮られた。)

池上委員長: ア、一寸、チョ、取敢えずネ、此れは、ムニャムニャ仰ったって言うか、あの、2)の(ア)のところに書いて御座います様に、やっぱり宇宙開発って云うのは直ぐ後が見える話で、所謂国のアンカーテナンシーですネ、計画的な発注があると云う点で、あのー、ISSは是非続けてムニャムニャ。格別に新しいその、カクハンメイド(?)のものを次々にやると云う事も一つのやり方としてあるかも知れないけれど、事ISSについて言いますと、あのー、同じ様なものをネ、同じものをムニャムニャ云う事があれば、ムニャムニャ。そう云うこって良いと云う風に思うんですヨ。

井上: そう言うんだったら、エエト、他に同じ様なものが別の形で動いたっても、良いと云う事ですネ。

池上委員長: ですが、**其れが今の処は見えませんネ⁶⁰**と云う。.....兎も角、此処の、ムニャムニャ問題になるのはですネ、HTVの改良版をやった場合、どう云う風に此れムニャムニャ、そう簡単には.....やっぱ、そりゃ企業であれば、言ってる事書いてて、**我々此れあの、経団連じゃないんで、余り色々言**

⁶⁰ 何も見ようとはしなかったもので、見える訳が無い。宇宙輸送系の技術課題を挙げれば、限りなく数え上げる事が出来るだろう。

うとしようがない⁶¹んじゃないかと云うのがあって、それとも、あの、そう云う事を仰って、其れを入れて、まあアンゼン(?)ムニャムニャ。……ア、どうぞ。

浅島: エエト、この一、2)のエエト、アムコ(?), ヒジュアリングスパケットケイレツ(?)があってですネ、何となくその一、ま、ISSはエエト、儲かんないシクラ(?)てんじゃないかと思うんです。ワンク(?)に見えるんですけども、**実際はその一、先程の宇宙船のドシメータ(?)とかですネエ、テレメータとか、テレサイエンスとか、或いは宇宙食とか、或いはその繊維のハヤ(?)とかですネ、かなり其れの周辺で云う様のとこの、宇宙って云うものをその、一つの視野に入れながら、物凄い広がり**を占めてる⁶²訳です。ですから、此の辺のとこフカ(?)からネ、案外その一、見方によっては非常にネガティブに見える訳です。そうじゃなくて、その一、実際は其れによってヨガイヨブ(?)も、エンブ(?)も含めてですネエ、それからその一、そう云う、イチオセ(?)我々の日常的な処まで入って来てる訳ですから、此れは、宇宙機器の開発イオベン(?), ヒトウトバッカリ(?)と、まあ、一種のその、どう云うんですか、

⁶¹ 論理が酷過ぎはしないか。経団連の職分である云うのなら、無理に引き出す必要さえ無いのではないか。何も触れない方が経団連は喜ぶかも知れない。

⁶² 割舌が悪く、録音状態が悪いので、発言内容が把握し難いが、どうも宇宙利用実験の事を考えた発言らしい。此の章は「宇宙産業振興」で、其の対象は宇宙用機器の製造企業を考えている。浅島委員は何か勘違いされている様だ。

あの一、インキュアル(?)ネ、企業の方へ言ってるんですけども、やっぱり此の書き方が、此れだとですネエ、其れしか生まれてないのかと云う話に見えるので、まあ、あの、後の方に何も実例が無いから…

池上委員長: ア、そうです、ア、分かりました。じゃあ、後の方に書くように致します。で、今回のヒアリングのジスト(?)はネ、経営者なんです。社長なんですヨネ。社長からして見ると斯う云う言い方なんです。次のムニャムニャ。だから、矢張り、其れ以外の色々波及効果って云う事については、此れは、あの、ア、其れはじゃあ、後に突っ込み…

浅島: ええ。

池上委員長: そもそも我々外に居る人間は、ムニャムニャ。社長は矢張りムニャムニャと云う事が大事なんです。で、其れは一寸ミルシャ(?)……後は…ア、

山川: 宜しいでしょうか。今とおなし事なんですけども、**1%程度と云う、此れはたまたまヒアリングした会社の一社が 1%と云う話であって、もう一社はもう少し高いパーセントですし、あの、関連企業、他の企業で、例えば、何処の会社とは申し上げませんが 17%を宇宙関係だと。だから、そう云う会社が一杯有る訳じゃないですか。だから、ま、先程あの、浅島先生のご指摘の観点もありますけど、もう一つは、此の1%って云う、聞いた瞬間に、どの会社がスト(?)を言ってるかっての分かってしまう訳です。だから、此処に書くなら其の会社名を書くべきだし、其れは多分拙いので、そうでなければその、もう少し違う表現、或いは正確なデータを後に付ける様にし**

ないと、一寸一社だけに対して、ユウキヲ(?)見られかねない表現⁶³だと思います。

池上委員長:でも此れ、1%程度って云うのは2%ムニヤムニヤ言ってる。

山川:いや、でも、たまたま此れは一社の話であって、他の会社で、高いパーセントの会社もある訳ですから。

池上委員長:ア、アー、

⁶³ 此の様な報告書に、ほんの一部の会社の事情を書くべきではないのは、ご指摘の通りであるが、此の様な事を長々議論すべきでもない。そもそも、【ISS計画の今日的意義】を5項目に分けて述べている中の【C. 宇宙産業振興】について議論している。「産業振興の観点からISSはどんな意義を持っているのか」を書く処だろう。実はそれに対する良い答は無いのである。宇宙産業各社にとって、宇宙のビジネスは最良の選択ではない。もっと儲かる業種は幾らもある。何しろ商品の出が少な過ぎる。民間航空機でさえ世界で2+2+ の製造会社しか成り立たないのに、衛星やロケットの製造会社が此れほど沢山あって成り立つ筈が無い。企業は「儲け」以外の動機で参加していると考えるのが自然だろう。ヒアリングに参列した各社長の発言にもあったが、此の手の発言は全く取り上げられなかった様に見える。最も頼もしい動機は「お国の為に力になろう」と云うもので、宇宙活動に必要な技術の中に戦略技術が沢山入っているから、其の維持発展に協力しているのである。

「ISS計画が存在する以上、我が国の産業振興にも寄与出来る運用をしたい。」と云う事が本報告書の此の章の目的なら、内容も書き振りももっと違うものになるのではないか。

山川:例えば十何%とか20%の会社もある訳なんですネ、比較的大きな会社で、だから、一寸、誤解を(遮られた)

池上委員長:アー、分かりました。

山川:他の会社の方が見た時に。

池上委員長:アッ、分かりました。……ア、でも、そうすると、何処を因みに、チタカッタ(?)んですか?

山川:そうなんですヨ。此れは、其の会社の事を多分...

池上委員長:いえ、あの一、此れは結局ですネ、HTVに、あの一、ホカンレンケイ(?)で、メンモンドラクタ(?)ですネエ、あの、三菱重工とそれからIHI、で、IHI確かにIHI全体で1%ナスカム(?)、ただ、あの一、IAは、此れは、成立...あの、コマーシャルんなってるんだけど、此れ多分80%等々、ア、そんなに行っていないか、ムニヤムニヤ。此れはあくまでもあの、HTVをやってるその、メインコントラクタって云うんで、三菱重工ヤタンガ(?)と、其れを想定はしてる。

山川:ならば、やっぱりそう云うコミッチスイタ(?)ではないかと。

池上委員長:ア、じゃあ、一寸此れ、じゃあ、あの、工夫し致します。

浅島:今のところはネ、或る意味で此の、カクア(?)非常にその一、誤解を招くのは、結局その一、エエト、最初の方のまあ此の、例えばその、13頁の上に⁶⁴ですネ、エエト、650社って書いてあるんですヨ。650社は平均では、ジツリ、スパットカナ、デッテヤマシ(?)に、一般的にはそう云う事です。ですから、

⁶⁴ 再編資料では10頁左欄の中程になる。

其の辺のネ、矢張りその書き方と、それからその一、エエト、斯う云うものを出すのがですネ、ホントに良いかどうかって事含めてですネエ、少し検討した方が良いと思います。ええ。あの一、つまりあの、直接的なものと間接的なもののがかなり色々なもののがかなり色々なものが、アガイテ(?)あると。で、此れからその、そう云うもの、宇宙産業を振興するつつた時に、その、もう少しフロバイダ(?)出来ると云う様な、コウシメ(?)がある訳ですから、その、斯う云うその書き方を、その、「過ぎない」って云う様な、書くとですネエ、ホントにじゃあ、もう、あの、そう云うトライニワ(?)せんかと、要するにムニヤムニヤ事なので、慎重な表現が良いかなと。

池上委員長:じゃ、じゃ、其れあの、チヨ、一寸、あの、私も社長経験してますんで、ムニヤムニヤ。

森尾:ムニヤムニヤ、1%て云う風な事は、意味がホントは無いと。会社にとって1%ムニヤムニヤ、ジユドウ(?)するのかどうかの方が、遥かに重要なんで、特に1%なんて書くから今の誤解が生まれるんですネ。だから、此れはもうカク(?)ですヨネ。やっぱり、ゾウキンジツォメ(?)此れは国のアジゾウ(?)面で、プレス(?)とかネ、そう云う視点で仰ってたと思うんですネ。1%だって、やっぱり1%の、コウク(?)位の売り上げがあれば、やっぱり会社としては重要なビジネスであると云う、あの、続ける意味が、意思がお有りだと僕は思ったんですヨ。パーセントの問題じゃないんです、其れは全く無いんです。

池上委員長:ア、あの、ワ、分かりました。其れは当然なんですヨ。

オヤク(?)気になったのはネ、赤字になったら止めますよって事なんですネ。で、其れは当然なんですヨ。で、株主の立場から見ると、赤字んなれば其処を切れって話になる訳です。そうすると宇宙関連切られるんではないかと云う心配が生じて来てと云う事で書いてあるんです。其れはあの、もう少し工夫をして行きたいと思います。だから、社長として見ると、此れを是非イライテ(?)云う事は事実。で、出来たら此れを増やすって云う事、或いはですネ、此れも書き過ぎてるんです、13 頁の一番下⁶⁵、ご覧になって頂きたいんですが、「海外では軍需産業が航空宇宙産業を牽引しており、日本の宇宙産業はその点に於いて克服すべきハンディキャップを負っている。⁶⁶」ムニヤムニヤ。

角南:あの一、まあ、一つ若し、定義の仕方としては、ISS に関連する話と宇宙産業全体の話と産業育成の話、まあ、全部一緒に斯う、バラバラっと入っててですネエ、まあ、其処は少し定義を変えて、其の1%って云う問題も含めて、此のケースとしては非常に重要なISSのやり方にムニヤムニヤ言えればですネ、其れはムニヤムニヤ、ヒアリングしたし、ですから良

⁶⁵ 再編資料では10頁右欄の上から二番目の に当たる。

⁶⁶ 認識が違っている。日本の宇宙開発を担当している文科省及び機関(JAXA)は軍事を担当している防衛省との交流が無いのは確かである。然し各企業の多くは両者と協力していて、全く同一部署ではないものの、人事交流や要素開発を通じて交流できる状態になっている。ハンディキャップと考える事は、国家安全保障を理解出来ない自らの逃げ道を口にしてに過ぎない。

いのかも知れませんが、其れが宇宙産業全体の育成の話と云う風に捉えると、ムニヤムニヤ。それから、もっと言えば、650社以上のものを。日経は「はやぶさ」に関連する企業の記事を出してましたけども、色んな企業がムニヤムニヤ関わって居って云う事もありますけども、其れは宇宙産業って云う事じゃないんですけども、其の広さを出してくって云う事も必要だと思うんですヨネ。あと、其の議論を「国内宇宙産業の課題」って書いてあるんですが、中に書いてあるのは課題ではない。

池上委員長:エッ、そうですか。

角南:その、「2)国内宇宙産業の課題」って書いてあるんです。

池上委員長:アッ、ア、アア。...

角南:テイカ(?)のとなりの並びに...

池上委員長:ア、分かりました。

角南:「課題」のそこだけど、取組も書いてあるんで、此の辺...

池上委員長:ア、分かりました、はい。一寸時間がありません⁶⁷ので、ムニヤムニヤ。...はい、どうぞ。

田中:エエト、此れ、あの一、此の箱に書いてない処ってのは誰の文責になるんですかネエ。エー、此の...つまり、此の箱に書いてない処は、此のヒアリングに来た人が言ったって云う事で良いんですか？

池上委員長:エエト、此处で、エエト、

田中:此の箱に書いてある(1)と(2)は産業界の経営者が言った

って事だから、まあ、言ってみると此の委員会として見ると、まあ、会社が言った事ですナって云う風に...

池上委員長:そうですネ、ええ。

田中:其れなりにするけど、提言は此方が言ってる事。...箱の外に書いてあるのは、此れは、此の委員会の意見ですか？

池上委員長:も含めた補足説明。補足です。

田中:で、そうすると、まあ、私が斯う云う事言うのは、イイカタカ(?)どうかと思いますけど、最後に「海外では軍需産業が云々」て云うのがあって、ハンデを負ってるってのは此の委員会が此れはハンディキャップだと言う風に認識するのかって云う、そう云う...なんか問題になりますよネエ。ですから...

池上委員長:其れはですネエ、あの一、あの一、議論してる時にそう云う意見が出た⁶⁸と云う感じです。で、其れは客観的にはあの、間違えていると云う事は無い訳ですヨネエ。

田中:其の場合、ハンディキャップと云う意味をどう云う風に考えるかと云う事が。

池上委員長:ああ、ア、宇宙にとって。

田中:宇宙産業にとってみると、軍需産業に繋がる事が、あの一、アレだって言うけれども、そうすると、その他タンイ(?)として、じゃあ宇宙産業にとってみると、日本はもっと軍需産業で、軍隊がドンドンやって貰った方が良かったと、良いと、そう云う...

⁶⁸ 恰も3人の社長のお一人が発言したかの印象を受ける。念の為に議事録を検索したが、「軍需産業」と発言したのは岸委員が2回、池上委員長が1回、計3回だけであった。

⁶⁷ 終了予定時間まで1時間以上残っていた。

池上委員長: 其処までは言って無いですネ。

田中: だけど、その一、此処に課題だって書きちゃうと、

池上委員長: ア、課題？

田中: 言い方が、此の委員会として、あの、もう少しその一、宇宙は**此の頃安全保障にも使われる様になった**⁶⁹けれども、エー、此の程度じゃあ駄目で、あの一、もう少し安全保障関係やんなさいと云う様な事に繋がると云う、其の、何と言うか、あの、インクリネーションを、あの、意地悪な人がいるとそう云う事を言ってる様に思われるかも知れない。

池上委員長: ウン、ウン、ウン。

角南: 今の点、もう少し。今の点重要だと思うんで、私は、あの一、下位文書(?)文書がイノベーションでなってるって云うか、軍需産業と云う、軍需と云う、所謂デマンドを作っていると云う

⁶⁹ 其れだけが安全保障だったら此れほど簡単明瞭な事は無く、国連の宇宙法の中で「宇宙は専ら平和目的で」とか唱える必要が無い。第1の点は其処に必要な技術である。敵対国に渡る事を防止したい技術が多く含まれているので、自ら開発し輸出しない事が国家安全保障に役立っている。第2の点は国防を専らとする組織(防衛省)が利用する事である。本来、国防の仕事は、最も優れた装備(武器ばかりでなく、食事や排泄まで)を使い、士気に溢れた兵士を任務に宛てるものである。自らに不要な制約を課するのは如何かと思う。田中委員は後者の事だけを行っている。後者だけを安全保障と考えたら、ISS 計画に参加する意義(宇宙有人活動支援技術を米国だけのものにしない事)に辿り着ける筈が無い。

事で、色んな産業があって、ムニヤムニヤ、必ずしもその、軍需産業があると云う此の定義ネ、だから非常にあの、サラッとしか書いてない事もあると思うんだけど、じっくり考えて見ると、例えば DARPA がやっている事とか、色んなその...色んなアレをですネ、必ずしもその、軍需と言いながら、軍需産業其の物ではない。軍需産業育成ではないと云う、色んなその一、考え方があります。だから、此処で言うと、非常にそう云う意味では、軍需産業が航空宇宙産業を牽引している構造と云うと、軍需産業って云う定義を非常に何か斯う、其れで何を目的にムニヤムニヤて云う事になりましてネ、例えばインターネットがデビューしたのは、DARPA の影響ムニヤムニヤて言うと、ムニヤムニヤ。そう云う話になって来るとインターネットという観念...でもまあ、まあ、あんまり此処は、2 行の事で議論するって云う事は難しいから、結局...

池上委員長: 削除しときますワ。...いやあの、企業にしますとネ、いやもっと手前で、寧ろ武器三原則に基づいてムニヤムニヤ。

角南: 安全保障も含めた、国の調達の、セッテイ(?)調達の役割って云うのが、日本には非常に足りないと思う事でしょうか？

池上委員長: そう、そう、そう、そう。

角南: で、イネン(?)すると、此処で言ってるのはアメリカと云う事だと思っんですけど、そうすると、若しかしたらアメリカが非常に特殊で、其れ以外の国々は別のやり方をやってるかも知れません。例えばイギリスもまあ、フィニ(?)のやり方なのかも知れない。

田中:まあ此の、此の経営者の方々のご意見てのはあの一、エエト、宇宙航空産業の事のみならず、日本で防衛産業についてご意見賜ると必ずこう云う事を仰るムニャムニャので...

池上委員長:そう云う事、そう云う事です。

田中:あの一、エエ、ですけれども、その一、エエ、此処ん中は未だ良い、ホケンガイ(?)って事はあるんですけれども、エエその、此処まで、委員会の意見と取られるかも知れない処で斯う云う議論で、強い反響がムニャムニャ。

池上委員長:ああ、そう、ア、分かりました。で、良く日本の...あの、日本の方もです、そしてNASAはJAXAの10倍高い...で...その、技術に貢献してるムニャムニャは勿論あって、で、だから、若し(?)削除しなきゃいけないって云う事ですので。本来だったら、ところがそう云う事割とタブー⁷⁰なんですヨネ。敢えて此処で取り上げる必要な無いナと。そう云う事です。

田中:だから、若し、本格的に議論すれば、其の、宇宙科学戦略の中に於ける安全保障面の議論で云うの、あの、宇宙基本法は、今度はエエ、その、非軍事じゃなくて宜しいと云う事になってる訳ですから、議論は出来済んですネ。あの一、エエ、ですからその一、是非実際にあの一、JAXAの中の一部

分は今の情報収集衛星の開発に協力はしてるんですヨネ。それで、今後、其の情報衛星開発今後どうするかと云う事に関して言えば、エエ、日本の中でこれはゼンベ(?)非軍事じゃなきゃ出来ないって事では無くなる訳ですから、議論はもうあるべきだと思うんです。ですから、ただ、其れをその、エエ、日本の宇宙航空産業に携わってる産業が、エエ、私共は此のISSを...まあ、ムニャムニャISSが無くなっちゃうと、日本に他にエス(?)に代わって宇宙を使える軍事目的の利用が余りにも少ないからって云う風に言うって云うのは、私としては分からない訳ではないけど、ホントに効果ってのは些(いささ)か議論の余地はある⁷¹と...

池上委員長:分かりました。此処は其処を議論する専門の場でもないし、で、私はじゃあ削った方が我々の見識を疑われない為に必要だと(会場笑い)ムニャムニャ。

青江:「克服すべき」だけを削りますか。「克服すべきハンディ」と云う「克服すべき」と云う形容詞だけを削る?

(暫く無言)

池上委員長:ただその、軍事産業のネ、定義としたら...

青江:いやあの、「克服すべき」と云う事についての政策的意図とでも言いましょうか、其れが入って来る。其れが、其の部分

⁷⁰ 敢えてタブーと云うのなら、「侵略戦争」であって、「国家安全保障」ではない。誰もが自分の人生を全うしたいし、自らの子孫の繁栄、其れを広げて我が国の将来が継続的に栄える事を望まない者は居ないと思う。其れをタブーとして、議論してはならないと非難するとは何事か。其処に在るのは「国家安全保障」と「侵略戦争」を同一視する、思考停止の国民としか表現出来ない。

⁷¹ ユーザとして日米を比べると、日本は精々広がってシーレーンの防衛だが、米軍は世界展開である。GPS や通信衛星、気象衛星、偵察衛星は全地球を対象にしている。規模が違い過ぎる上に、自衛隊は独自の通信衛星、気象衛星を持たず、民間へのサービスを利用している。

取ると何ですかネエ、其れだけの話になる。全面的に取っても良いんですヨネ。

池上委員長:ア、ア、ア、あの、今その、議論のきっかけとして、若しそうだったら、どうなりますかネエ。

廣川:良いですか?あの一、私の感覚だと、その一、ハンディキャップを負っているって言う言葉自体はやっぱりネガティブなエステジ(?)だから、あの、其の事自体に対する価値判断が入ってしまうって言う感じを受けるんです。

角南:実はあの一、此のですネエ、あの、アメリカ...ダイウツ(?)アワードで、或る種の委員会を、結構イノベーションの研究者が、私も、呼ばれて行くんですけど、其のテーマはミッション型研究って言うものが、ホントに其の国のイノベーションに貢献したかって言う事をもう一度キチッと検証しろと云うプロジェクトなんですネ。と云う事は、我々が一般的にですネ、何となくその軍需と言っているものと、それからそのまあ、非常にリスクの高いブルースカイ(?)研究ってのは密接な関係があると云うのは、アメリカとかの例を見ながら、何となく分かった様なんだけど、其処はホント其れが効率の良い研究開発のやり方だったかって云う事については、僕はコンセンサスないと思って⁷²ます。なので、まあ、事実として斯う、此れがあって、此れがあるって云うのはあるんだけど、此処の

⁷² 軍需の製品や研究開発は他の分野の其れより効率が良いなどと云う事は無いので、其の様なコンセンサスがある訳が無い。軍需品の唯一の特徴は、世の中には相応しい物が無いので自ら開発すると云う事だけである。役立つ物は全て欲しいのである。

因果関係と、其れから日本が宇宙産業を育成して行く為には、必ず此れが無いと負けるんだよって云うか、ハンディがあるんだよと云う考え方も、必ずしもそうなのかって云う処の検証は、先ず、此れから我々もしなきゃいけないナって云うんで、実は来年その、或る大学で特別なイショウ(?)を組もうと、此れあの、グリーンイノベーションと同じ事なんですけど、そう云うまあ、国の役割って云うのは、望めるけれども、どうなのかナって云うのは一寸未だ此処まで強く打ち出すアレがヒダシ(?)...

池上委員長:はい、じゃあ、どうも有難う御座いました。ア、どうぞ。

田中:若し、結果的に書くて云うんであれば、その、青江さん仰った様に、その、日本の軍需産業が日本には無い訳じゃないんで、軍需産業はあるんで、エー、あの一、ですから其れを軍需産業とは言いませんけど、防衛生産やってるムニャムニャ。で、其の規模が少なく、しかも長期的な面でとりわけ宇宙に関係した調達項目が少ないと云う、そう云う事は書けると思います⁷³けどネ。あの、現実として。だからISSを切られちゃうと、あの、エー、その宇宙産業に対してその、企業が維持してくインセンティブが減りますネって、其れは言える

⁷³ 其の様な事を書いて何に役立つと思いののか。防衛省が関与する宇宙活動の予算が確保される時、JAXAの予算が削減されるとは思わないのか。現在の宇宙活動の為の予算は、日本の国家予算から算出する天井より未だ低いと思うが、左程大きな差があるとは感じられない。

思いますけど、其れを、反映さすかどうかって言うと、そもそも日本の防衛産業自体ちっちゃいですしね、だからあの、アメリカとおんなじもの防衛産業にしてくれればね、同じ風な形と思いますけど、ムニヤムニヤ。

池上委員長:ア、じゃ、あの、アルテ(?)ソイテ(?)メッセージ何かあるかと言われると我々困って(?),で、あの、これについては慎重な扱いをしたいと言う風に思います。引き続きまして、ムニヤムニヤと云う事で。次に 14 頁の、あの、「青少年の教育・啓発への貢献」⁷⁴で、ご意見御座いませんか?で、後で書いてある処、どう云う訳かあのー、エエトネエ、スクッテル(?)処が広く言っております、で、其れ以降のまあ、ムニヤムニヤ、狭い意味での教育って云うムニヤムニヤ。スアイト(?)はあの 15 頁一番最後のですネ、あの、海外のキャパシティ・ビルディング、宇宙開発ムニヤムニヤ、其れについての、あの、ムニヤムニヤ。

(暫く無言:約 30 秒)

池上委員長:宜しいでしょうか? そう云う事でしたら次あの 16 頁、あの「国際協力・安全保障・外交」⁷⁵...

浅島:あの、此れも先程のエエト、サングスンポウ(?)【所見】のこの一番最初の説明してる事は「経済力、軍事力のみならず、」と、軍事力と云う言葉を入れるとですネ、若しもそう云うその、エエト、ISS からその軍事力も含んでると云うその、まあ、

あの、シチュエンカイナガレル(?)かも知れないので、余り此れをやるとです、僕はあのー、誤解を受けるかナァと云う印象をチラ(?)してるので、それで、ですから、経済力、科学技術力とか⁷⁶って、何かそう云う、のみならずと云う、斯う云うその、事をしといた方が寧ろ、エエト、此の文章としては良いのかナと、一寸そう云う風に思ってます。

池上委員長:どうですか、田中先生。

田中:あのー、まあ確かに、エエト、此処の ISS に関連した所見と云う事で、此の様に書くと、ISS に関連して ISS の経済効果、軍事効果、エー、それから知識効果、共感効果全部一纏めで言ってる様に、エー、此れ、ナイブケイズ(?)なんですネ。若し其の辺、アレが有るとすれば、エーそのー、エー、「一般的に 21 世紀の世界に於いてエー、あのー、国際的な影響力に於ける知識や共感力のニーズが高まっている。」と云う

⁷⁶ 軍事力と云う言葉そのものに過剰反応する事はおかしい、此処で述べているのは「安全保障」の為の力を単純に列挙しているだけなので、ISS に其れが有るとか無いとかには無縁なのである。ただ、此の様な発言が有る事が日本の現状を示しており、「軍事」の用語を避けるだけで平和が保てると云う、日本人の誤った感覚を代表するものである。また、此の文章自体も不十分である。ISS 計画に参加した事が我が国の安全保障にどの様な効果があったのかについて、何一つ言及していない。ISS 計画に参加しなかったら得られなかったであろう戦略技術を習得した事が、我が国の安全保障に寄与すると云う、簡単明瞭な事が何一つ表現出来ていない。観念的に「影響力」「強さ」としか示されていない。

⁷⁴ 再編資料では 10 頁右欄中央から始まる [D....]。

⁷⁵ 再編資料では 11 頁右欄中央から始まる [E....]。

様な、その、言い方にすれば、あの、経済力や軍事力のムニャムニャ(会場はザワザワ)

池上委員長:で、あの、本文ですがネエ、ISSについて国際協力・安全保障・外交の点から、ヨウス、ニワ、アン(?)、難しいですヨネ、そもそもが。で、あの、これはですネ、一寸ナエタ(?)全体の流れん中で、考えて行った場合に、ISSの取組がどうなりますかって云う様な処を言おうと思って、これは...

田中:あの、ええ、ですから、前私申し上げたと思うんですが、国際的影響力はISSの影響力って云うのではなくて、つまり一般的な、単に国の影響力

池上委員長:チョットマテソレ(?)

田中:ええ。経済や軍事だけでなく、知識や共感力の比重が高まって行く。そして、ISSと云うのは、国の知識水準とか、世界に素晴らしいと思わせる様な、そう云う事業を象徴⁷⁷してる。

⁷⁷ 国際政治の専門家ならもう一掘り深めて欲しい。此の論法だと、ODA や国連活動への参加、寄与と何等変わらない。其処との資金の取り合い・分け合いになってしまう。ISS ならではの事と言えば、宇宙有人活動そのものであるが、其れが何を意味しているかの理解が深くなければ論じる事が出来ない。其の為の技術が国家の長い存続に不可欠になるかも知れないと云う仮定を否定し切れないのが今の状態である。いざ其れが不可欠になってから取り組んだのでは遅いし、今から全速力で其れに向かうのは早過ぎる。其れが火星移民なのである。其の可能性を追求するのが一国であってはならないと云う暗示の合意の下に、欧米加日の4極が糾合したのである。

だから、エー、21世紀の世界に於いて日本の影響力を高めようとするのであれば、其の様な知識や共感力をシンボライズする様な活動を、今後もやって行かなければいけないと云うのが、ボウイッタ(?)...

池上委員長:ああ、そうだネ、はい。じゃ、其れはネエ、そう云う様に、あの、表現を改めます。...他に何か御座いませんか。

田中:エエト、

池上委員長:はい、どうぞ。

田中:あのー、此れは、先程のあの、一番最初の処の、あの、エー、ISS[きぼう]の利用の最後の処⁷⁸に、あのー、「アジア諸国に開かれた」って云う文言、其処に入って来ると云うので、こっちでも宜しいんじゃないかってご意見あった様に思うんですけれども、まあ、移しても良いですし、あの、此方でも再出して頂いても良いんじゃないかと言うか、あの、どちらかって云うと、此の提言の処が、あのー、此れも私が申し上げた事と関係して、ややこすネガティブに、止めてしまうと斯う云う悪影響が出ますヨと、そう云う、見方なんですけれども、提言ススメル(?)と、やっぱり積極的に、その、斯う云う様に外交的な観点から言って、ISSの利用をアジア諸国に強く促す⁷⁹事に依って、そのー、エー、日本外交の、あの、サエン

⁷⁸ 再編資料4頁左欄の中程で、[A...]の【提言】の最後。

⁷⁹ アジア諸国が望んでいるのは何か？ ISSで微小重力実験を行えるように優遇するよりも、日本企業の工場を誘致して、雇用を拡大する事の方を寧ろ望んでいるのではあるまいか。ISSの利用を促進したいのは日本であり、文科省、JAXAなのではないか。

ズ(?)述べる事になるかなと云う様な、そう云う様な、其の稍こう、ISS を使って外交が進むと云う、そう云う提言を此処に入れて頂けると宜しいかと。

池上委員長:分かりました。山川委員、其れで宜しいですネ、其れは。

山川:はい、それで.....。

池上委員長:何か、はい、どうぞ。

角南:あの一、アジアがドンドン見えてくのは、非常に私も、アジアに関心があるので、ムニャムニャですけど、まあ、アジアだけって云う...ま、宇宙外交って云う考え方、ま、**アジア以外に斯う云う宇宙に関してやって来て無い国に対しては、やっぱり同様の日本の影響力ってのはある⁸⁰**訳なんで、まああの、一寸一言、ゴサシ(?)に関しては、アジアを初めとして云々と云う、一寸「きぼう」あの、地域的なあの、要するにリージョナルパワーを目指してる訳だから、そう云う処も少し...宇宙外交の提言で仰って議論したので、斯う云う処を少し入れて置いて頂いたらと。ただ、アジア、アジアしか出て来ないので、

池上委員長:ええ、ええ、ええ。

角南:どうなのかナアと。

池上委員長:ア、ア。.....エエト、ポジティブに書くと云う事は

⁸⁰ 皆が口を揃えて ISS の利用権を提供出来る事が影響力で、利用して貰う事が外交だと言っているなので、すっかり思考停止している。4 極の中に参画している事自体が外交であると、誰一人発言しないのは何故か。此れでは業務仕分に耐えられない。

何か...確かに此れはあの、かなりあの一、防衛的な書き方に.....なっております。.....で、今の、その、アジア以外のとこって云うとムニャムニャ。もう一寸ポジティブな表現を考えて....。

田中:前にあの、私申し上げなかったんですけど、あの一、外交的に言うと此の ISS って云うのは、何て言うんでしょうかあの、ホントにアメリカとの協力と云う事が非常に大きいですけども、**ロシアとの協力⁸¹**と云う様な、あの、日本の外交の枠を広げるのに役に立ってる事業だと思うんで、そう云うあの一、何てんでしょうか、日本が国際的な共同作業をしていると云う事を象徴する様な活動として外交に大変役に立っていると云う所見を入れて置いて頂くのが宜しい様な気がします。

池上委員長:ああ、分かりました。具体的には JAXA の事務所をロシアに作るって云う予定にもなっております。ムニャムニャ...はい。

浅島:あの一、【所見】の 4 番目ですけども、「きぼう」内の実験装置と云う物のですネ、「サブシステムは高い評価(「箱庭・盆

⁸¹ ロシアだけが参加形態が違くと白木理事が説明した事がある。ロシアの戦略技術が不穏な国々に流れない様に、ISS 計画の中で米国がソユーズやプログレスの打上げサービスを買っているのである。折角此処迄の活動も外交だと言いながら、米露を同様に扱うのでは、国際政治の専門家としての資質が疑われはしまいか。ロシアが ISS 計画を通じて新しい国際政治の枠組みが完全に理解出来たと評価されて居るなら、此れでも結構である。

裁」同様の称賛)」此れ一寸...何に...その、イオ(?)って分かるんだけど、斯う云う事じゃなくてですネエ、サブシステム、例えばその、ドシメイ(?)たり、あの、ホシノワカル(?)様な素晴らしいソシ(?)とか、或いはその一、エエト、暴露部のプラットホームとかネ、そう云うものを書くべきであってネ、盆栽とか箱庭と言ったらおかしいんじゃないかなアと。

池上委員長:分かりました。.....ただ私、あの、正直言いまして、何故こう云ったカツ(?)を書いて来たかって言いますと、向うに行つてですネエ、あの、箱庭・盆栽の様だと言われて、最初はゲームツ(?)されると、ゲームツ(?)されてるかナアと思つたら全然そうではなくて、彼等の最大の称賛であるとする事に後で気が付きました...

浅島:ええ、あの一、称賛されるものは沢山あるんで、箱庭・盆栽じゃなくて、あの、日本には沢山ヒツヨセノ(?)があるので、だからその、「きぼう」の中で、サブシステムで、フザイ(?)を受けてるものは何かと云う事を書く方が、此処としては良いんじゃないですか。

池上委員長:フン、フン、フン。いや、例のあの、ヘキン(?)当時、ムニャムニャ。

浅島:ええ、ありますネエ。それから暴露部だって、ヒチヨウ(?)にヤッパし、

池上委員長:ええ、ええ。

浅島:それからあの一、

池上委員長:あの、ロボットアーム、テキイドテキニ(?)代わる様なものをムニャムニャ。ア、分かりました。じゃ、何れにしても

箱庭・盆栽は止めます。

鈴木:あの、田中社長の仰つた事もあって、確認なんですけど、その、あの、ポジティブに言うのは良いんですけど、あの、其れはあの、全くハンセ(?)ないんですけど、最後にその、ヤリダサヘノ(?)んなるって云うのも書かれる訳で、

池上委員長:はい、はい、はい。...はい。.....ア、あの、少なくとも、ISS 此れは多分言い過ぎじゃないと思います。此れはアメリカの連中とかロシアのあの、スペースポリシーをやつてる人と議論するとネ、あの、私が考えツギノナ(?)ムニャムニャて云うナ。.....宜しゅう御座いましょうか。...若しそう云う事でしたら、18 頁以降⁸²、サラッとご覧になって頂いて、エー、ムニャムニャ。ムニャムニャ。で、此のジウハジスト(?)厳しい財政事情と云う、どちらかと云うと文科省と各省庁のアイ(?)其れだけの予算、予算をどう云う風にムニャムニャ。或いは行政スケジュールで言いますと、概算要求請求ムニャムニャ、其れをあの、ベースもつたと云う事で、.....意見相当入つた様な文章⁸³になってます。ですから前回その、削減

⁸² 「『2016 年以降の運用継続について』の事で、再編資料では 13 頁右欄から始まっている。

⁸³ 要するに、宇宙実験親衛隊を集めて「具体例は示さないものの ISS は有力な実験施設なので継続させて欲しい、又、成果が出したいなら準備の為の実験に予算を付けて欲しい、全員がそう言っているのだから聞き届けて欲しい。」と言っている様なもので、「金を注ぎ込んだなりの成果が出ているのか？」と云う問いには何も答えていない様に見える。

て言葉は無い方が良くないじゃないかって、ムニヤムニヤ、少なくともあの、宇宙ステーション其の物について、ですからトゥールの部分については削減は出来る。で、エー、利用経費についてはですネエ、削減...あの、効果を上げると云う事で、削減て云う言葉は入って御座いません。場合によってはツチアテ(?)と云う事で、ムニヤムニヤ。多分あの、此れで財務省を通すムニヤムニヤ唐突である云う様な事も或る程度考慮して、ムニヤムニヤ。もう一つはあの、21 頁のシボリ(?)は HTV の回収機構ムニヤムニヤ、前向きになってたんですが、其れもサステージ(?)の前までやれと云う事になると非常に、此れは、シーカ(?)ムニヤムニヤ、ウサンチョウノ(?)のその、シーサ(?)を考えながらと云う事で、こんなムニヤムニヤ。.....ア、どうぞ。

森尾: エエトあの一、全体のトーンですネ、あの、若し ISS 止めたらって云う事が一杯出て来るんですネ。

池上委員長: ア、其れ、今、何処ですか、其れ。

森尾: いえ、全体。だから、結論。

池上委員長: ア、結論ネ。ハア、ハア。

森尾: だから、其れ迄、結論に至る今迄のムニヤムニヤ。全体に少し斯う、ネガティブな、ムニヤムニヤ、まあ、本音が出て来る様なそう云う調子が。あの一、さっき、山川先生の最初に言われたと思うんですけど、2020 年以降もどうなのか、2015 年から 2020 年迄、まあ 15 年迄と同じで良い訳無いムニヤムニヤ必ずある訳ですネ。ですから今の ISS の国際協力って云うのは、日本にとって最適な協力の仕方なのかって

云うのを見直しながら、2015 年以降に繋げるか、或いはポスト ISS に繋げるかネ。そう云う何か、エー、エリン(?)がって云うか、例えば、「おわりに」も、22 頁⁸⁴の方の「ポスト ISS」に少し書いてあるんですけど、「議論に乗り遅れることなく」って云うのも、此れも何かネガティブなんです。イメージとして、もっと日本が国際協力、主導出来る様なネ、ポジティブなフィードバック⁸⁵がって云う風な感じを持ってまして。

池上委員長: あの、ブンゲイッタ(?)って、多分此処の委員の方、皆同じ意見だと云う風に思いますんで、エー、そう云うのを、ムニヤムニヤ。.....エエト、結論、一番最初の処⁸⁶はですネ、ISS によってムニヤムニヤ大分期待出来ますってムニヤムニヤ、で、其の後業界の話になって来たり、其の辺を...

浅島: エエト、非常にあの一...エー、その一、...ヒヨカー(?)此の基本的な問題としてですネエ、エエト、...も、...まあ、或る意

⁸⁴ 「 . おわりに」の事で、再編資料では 16 頁右欄の頭から始まっている。其の最後の文節に書かれている記事を指摘している。

⁸⁵ ポジティブな方が元気が有って宜しいと云う事であろうが、同じ事をポジティブに表現しただけでは何も効果は無い。何が高価だったのかを十分議論しなかったので、森尾委員のお言葉もある「本音」がネガティブに表現されてしまったのである。欧米が 4 極の一つとして日本を選んでくれた事を正しく評価しないので、其の中で主導的立場にならないとポジティブとは言えないと感じてしまうのである。

⁸⁶ 再編資料では 13 頁右欄の頭である。

味で言うと、地上の実験を含めてやってる事が、実はその、其の後の効果ってのが非常に大きいと云う様なメッセージで、其れは、一つはその、まあ、産業についてもアレですけども、其れと同時にあの、研究者自身のその、デバイコト(?)それでなくって、もう一つはISS計画の斯う云うですネエ、あのー、H- B 或いは...このー、ま、「はやぶさ」も含めて、宇宙関係全体そのー、例えばその、18頁⁸⁷のですネエ、「他方、厳しい財政状況云々」の中で、宇宙開発全体を円滑に進めて行く事も同叔父に求められている。」と、此の辺もう少しですネエ、とらまえておいてですネエ、あのー、まあ、例えばH- Bの、ア、其処に書いてありますけども、ロケットの何とか、或いはどっかのカイショ(?)のを受けてですネエ、そう云う様な周辺技術が、実は本当はその物凄い重要な事だっである云う様なその、仕組みを考えといた方がそのー、良いのかなと。文章に。此れ一寸2行だけじゃあ勿体ない⁸⁸。

池上委員長:ア、ア、分かりました。...はい。あの、他、全部読んで頂くと分かる、そう云う風になってる筈なんですから。ム

⁸⁷ 「 .2016年...」(1)結論の2番目の のこと。再編資料では14頁左欄の上の方になる。

⁸⁸ 何だか主旨の分からない発言である。ご指摘の一文は、「ISS計画のその他の日本の宇宙活動全体の中にあって、適正な比率の資金配分の中で行うべきものと認識して居ります。」と云う宣言の様なもので、其処に逐一その他のプログラム名称を書き並べる必要などない。「出来ればISS計画に厚く、しかも宇宙実験(利用)に厚くして欲しい。」と云う心の裏腹の意図的発言かも。

ニヤムニヤ。.....若し、何かコメント御座いましたらですネエ、私の方でも、事務局の方でもあのー、頂きたいと云う風に思っています。で、もう一度あの、全体を通じまして何か御座いますでしょうか。特にあのー、冒頭、利用のところです。此れが一番重要だっ云うのは私から言う事もない⁸⁹。皆さん色々ご意見、頂きたいんです。ムニヤムニヤ。

鈴木:あのー、19頁の⁹⁰ですネ、あのまあ、あの、「HTV及びH-Bの調達・運用経費」の件なんですけども、まあ、此れはあの費用削減で云う話が、かなり表に出ているんですけども、まあ、其れは勿論重要な事なんですけども、その、此の打上げ機会を利用してですネエ、あの、技術開発と云うんですか、エー、積極的に其の打上げ機会を利用して行くと云う事はどうなんですか。

⁸⁹ 明言されたが、其れがそもそもの誤りであって、「国家安全保障」のため「欧米だけに独走させないよう」又、「宇宙有人活動の為の技術習得」が格安で達成できる唯一・最後の機会だから、其の「宇宙有人活動の為の技術習得」を行う事が一番重要なのである。此処を間違っていっしやるので、説得力に乏しい報告書になり、無理に強弁する様な処も生じてしまった様だ。

⁹⁰ 「 .2016年...」の「(2)運用コストの効率化と成果の最大化」の小項目である【 HTV...運用経費】を指摘されている様である。再編資料では14頁右欄になる。「費用削減が表に出ている」と指摘されているが、其の表題の下には余り書かれてはいない。其の上の表題が「運用コストの効率化...」であり、其処に「効率化」の言葉が多く出ている事を指摘されている様だ。

池上委員長: 其れ、ド、どう云う事ですか? 打上げ...

鈴木: 例えばそのまあ、あの、HTV の改良でもですネエ、その一、エー、例えばそのカプセルを開発すると云う、単純に其れやるとですネ、やっぱり其れを打上げる実験機の、その、実験ミッションになる訳で、そう云うアレで言うと、あの一、HTV の元々の打上げ機会があると云う事はですネエ、其れとリンクさせて例えばカプセル、一部を開発するカプセル、あの、... あの、これからの議論なんですけどその、カプセルをどう云う風に使っていくのかですネ。実際にその、カーゴを運びながら、そう云う開発出来る訳ですネ。そうするとその一、テストフライトってのが必要無くなると云う。

池上委員長: アー、はい、はい。

鈴木: ですから、そう云う意味で言うと、まあ、そう云う結果的に潜在機会あるから、其れも積極的にそう云う事を技術開発に結び付けるって云う事も可能だろうと思うんですネ。

池上委員長: ア、あの一、分かりました。其れはですネエ、あの、何れにしてもやらないといけない話になっておりまして、あの、推進系全体の見直しと、その、HTVのあの、改造計画についてはですネエ、少なくともイーティエン(?)するものについては、あの一、此の委員会になるかどうかは別として、宇宙開発委員会でやってかなきゃいけないって云うのは、此れは書いてあるんですヨネ。

鈴木: ア、そうなんですけどもあの一、ショウサクリツ(?)その、ネガティブ、ネガティブってのではなくて、もう一寸ポジティブなその、面も出したらどうだろうと云う意見です。...あの、全体

としてですネ、あのまあ、あの一、取組がエエト、するんであると、其れはあの、そう云う提言は十分あの、ハイケ(?)書いてある事だと思います。ま、今度のあの、トブル(?)なんで、あんまりこうムニャムニャ、やっぱりポジティブ、ポジティブに、あの、やりたいと云うフブン(?)が、其処に掛けて来る。

池上委員長: で、で、あの、今の点について言えば、9頁⁹¹の ですネエ、有人技術・宇宙探査の処の、【提言】の2の処に書いている心算ではあります。で、多分あの、具体的イヨウ(?)としては其処までは、モ、チョニツテ(?)おりませんで、此処で議論ムニャムニャつきましてですネ、次行って、物資のその、地球タン(?)を、一寸カイナンシタ(?)分ですネ。で、其の中で、あの、ケイクモ(?)押さえながら、どう云う様なやり方を取ってくかって云う、此れから議論して行かなければいけないと云う事になると思います。で、JAXA の方も、あの一、ホントにオモシロク(?)検討しようとする事になるとすれば、あの、当然、持ってきたいと云う提案をして来るんじゃないかと。

鈴木: その、全体のあの、主旨は其れで結構なんですけど、私の言ったのは19頁の書き...

池上委員長: ああ、分かりました。

鈴木: カキク(?)の話てのは、もう一寸コイクンナ(?)...エッチツ

⁹¹ 再編資料では7頁左欄下から右欄上に架けた処である。池上委員長と鈴木委員が思っている事は大分異なる様である。

ニカケタ(?)そう云う事です。

松浦室長:はい、あの、仰る主旨は理解してます。あの、最初の初号機は、まあ、カーゴを運ぶって云う事で御座いましたが、と云うのもありますし、まあ、当然、エー、一緒に出来ればと云う風に思いまして、だからあの、此処はあの、実際のあの、国際交渉の中でですネ、そう云う風に行けるかどうかと云うのは、単にやり方の問題になるかも知れませんので。ただあの、出来れば反映したいかなと云う風に思います。

池上委員長:他に、何か御座いますでしょうか。……それではですネエ、今日頂いたご意見をですネ、全部もう一度あの、もう一寸見てみたいと思います。リバイスして行きたいと云う風に。で、エー、来週の宇宙開発委員会に掛ける予定になっていますが、あの、今のダイタ(?)会議やるって云うのは現実的に難しいんで、出来ましたら私の方にですネ、ムニャムニャお任せ頂くと云う風に。また、是非、あの、エー、ご議論頂きたいと云う、やりたいと云う風に思いますんで、メールか或いは電話で以て、ムニャムニャ。色々ご意見を頂きまして……実は此の枠組み作りに当たりまして、相当あの、あの、私…ドントコス(?)私とあの、此方側とは相当厳しくやり合ひましてですネ、で、あの、夫々あの、それで、文科省としてはあの、間もなく予算のムニャムニャ。で我々の方は、あるべき姿となって来ると…ムニャムニャ、相当…緊張関係を持ちながら今まで来て、で、ムニャムニャ。若し、此れについてのご意見、そう云ったもの御座いましたら、ムニャムニャ。

藤木局長:どうも指名して頂きまして有難う御座います。あの、

ナヤカクインチョウ(?)その一、緊張関係と仰いましたけれども、基本的な認識はあの、ほぼ合ったと…あの、宇宙ステーションについての意義は、此処で色々議論して頂いた、其の認識は我々も共有したいと思えますし、あの、一方で大きな予算を使っていると云う事に対する今後の姿勢と云うものの、この一、宇宙開発全体がそうだと思いますけれども、特に宇宙ステーションは400億と云う大変大きな現状予算を使っていますんで、其れに対して、**今後、効率化をスタートして削減して行く**と云う視点に於いてもですネエ、**認識は概ね同意してた⁹²**と思います。あの、一方で、言葉等々の問題について、様々な議論を頂いたと思えますけども、そう云った点に於いてはあの、意見が異なる処が勿論あったと思います。あの、其の時にはその、委員会是有識者の方の立場で纏めて頂く、そう云うイキダ(?)で御座いますので、私共はその、其れを承ってどう行政に活かして行くかという立場でありますから、あの、そう云う立場からご意見を

⁹² 藤木局長はお世辞で言っているのか。宇宙実験の研究者は何であれ予算を頂きたいと云う一心で、ISS運用に必要な経費を枠の外に於いて扱って欲しいと云う主張に終始した様に思う。日本の国家予算の中から一定の比率で宇宙活動に使う事が許される金額が決まり、其の内の適切な割合のものがISS関連に宛てられ、ISS以外のプロジェクトはどれ一つとして消してはならない大切なものであると云う事は、委員の全員が分かっている事と云う事は無いかも知れないが、文科省の方々は十分に認識されている事と思う。まあ、其れが「概ね」と云う事か。

申し上げますと、そう云う事ですけれども、全体のトーンについてチョウサ(?)があって、シヨコ(?)が、そもそも其の意見をポーンとテキソ(?)にやったと云う処はありそうですが、何れにしても此れだけ良い議論をされたんですから、其れを、報告書を、最大限此の予算、エー、長期的には纏めたい訳ですけれども、長期的な宇宙への取組の中ですネ、あの一、活かして行ける様に、最大限努力したいと思います。有難うます。

池上委員長: エエトあの、今後の予定はですネエ、先程申しました様にあの一、宇宙開発委員会通した後、大臣に、エー、で、色々なあの、斯う云ったウミエ(?)あの、委員会へ出た時に、ムニヤムニヤ、で、或る意味では文科省のですネ、非常に大きな問題をですネエ、エガキ(?)あの一、かなり宇宙開発委員会を、何て言うんですか、のやり方を其の儘、何と言うんですか、勝手にやらした方が良いんじゃないかと云う、多分戦略があったんじゃないかと云う感じを受けるんですけど、今回あの、タスクフォース的にやりましてですネ、それからあの、委員の選定につきましても、相当私も意見を言った心算⁹³なんです。或る意味じゃ新しいタイプのあの一、審議会と云うか、一つの鏡になった⁹⁴んじゃないかムニヤム

⁹³ 新しい顔ぶれも多かった。

⁹⁴ 随分自信がお有りの様だ。過去に起こった事を十分に吟味・評価した上で、今後の方針を決めるのが通常の手順だろうが、余り過去を振り返らず、将来に向かう道しるべを元気に打ち立てたと云う点で、確かに新しいタイプだと思う。

ニヤ。で、エー、ただ矢張り、行政的なプロセスかって事が、ムニヤムニヤ。其の辺、ムニヤムニヤ、或いは、ウメソン(?)との協力関係って言いますよ、ムニヤムニヤ。私の感じではあの、戦略本部も或る意味じゃ相当ポツと前に出た様な感じがするんです。私が考えてた以上にミュウジュウ(?)しましてですネエ、オマウル(?)ステテノ(?)、特に HTV の回収⁹⁵についてはですネ、其処までは考えて無かったって云う処までムニヤムニヤ出た様な感じを受ける⁹⁵んです。で、我々から見ますとその、大変議論確りしてるテニワ(?)って行ってくれたのかナと云う言い方も出来ますし、ムニヤムニヤ、ムニヤムニヤ。.....特に産業界の色々お話、御座いましたけれど、社長或いは若しくは社長のムニヤムニヤ、色々ロンジション(?)みたいな、ケイユク(?)...御座いませんで、それ

⁹⁵ 報告書の中では確かに其の様に宣言している。スペースシャトルが退役すれば、持ち帰る物の量は圧倒的に少なくなる事は確かであるが、其れが本当に困った事か否かの検討は行われて居ない。スペースラブでは持ち帰る必要の無いもの迄持ち帰ったが、其れは実験室其の物がシャトルのカーゴベイに収まっており、軌道上で廃却するものを選び分ける事の方が手間を食うので全て持帰ったのである。シャトルのカーゴベイが極端に広い為、持ち帰る事が苦にならず、持帰る事を前提に実験計画を立てたと云う事もあるだろう。蛋白質の結晶成長の様に、持帰ってからスプリング 8 に入れて解析しなければならぬものは、持帰りが必須であるが、どれだけの量があるのだろうか。持帰る量が激減する事は寂しいという気持ちには同感できるが、だからと言って HTV を全機丸ごと回収する様な、匹夫の勇は勘弁願いたい。

で多分宇宙ステーションに対するムニャムニャ。と云う事で、実は此れで完全に終わるんじゃないで、今後幾つか積み残した問題が御座いまして、特にあのー、有人エクスプロレーションとかですネエ、あの、或いはあの有人のフライト、生身の人間どうするか⁹⁶って云う観点では、一番最初申しました様に哲学者とか少し高い、広いドロ(?)の方を入れて、やってきたいと。で、特に今回あの、芸術とかですネ、そう云ったユーモスラタンケイ(?)についてはですネ、宇宙ステーションどうするかって云う事については、此処では未だあの、書かれて居りませんので、そう云った関連の方も含めた形で、ま、7月なり8月にはまあ、ムニャムニャ。そう云う事で御座いまして、未だ此れ、終わったって事では御座いせんので。それからあの、此の報告書って云うのはですネエ、あのー、

⁹⁶ ISS 計画に参加した事で宇宙活動に於ける有人支援技術を学んだのだから、次は其れを活かして有人飛行であると云うだけの論理で、多額の資金を要する活動に着手して貰っては困る。当面は有人施設に接近する HTV を運用し続け、運用の信頼性向上に努力を集中すべきだと考える。有人飛行に必要な技術項目は概ね学び終えたのである。残る要件は信頼性であり、時間を掛けて習得すれば良い。米国がシャトルの後継機を開発する様、盛大に声援を送り、米国との協力によって有人飛行を行う時間を出来るだけ長くし、我が国独自の有人飛翔体の開発着手を出来る限り遅らせるのがもっとも賢い選択だと考える。但し、どうしても必要な事態が迫ってしまったら、必死になって開発に取り組まなければならない。

我々の議論の結果出たと云う事で、イマンティウン(?)考えて居りますけどネ、セン(?)が、場合によっては何かサインを頂いたものを付けといて、上に上げる.....何かご意見御座いますか。.....事務局の方からどうぞ。

松浦室長: はい。あの、有難う御座いました。まあ、(録音を瞬時中断した。)

JAXA 白木: (瞬時中断後) どうも有り難う御座いました。

池上委員長: 後はあの、事務局も良くやってくれて、有難う御座いました。矢張り文章を作るのは事務局の方が上手いって良く解りました。文章能力がムニャムニャ感じです。あの、何か特に御座いせんでしょうか。

浅島: あの、エツランス(?)のゲッキュ(?)のそのー、処で、未だそのー、例えばですけども、23 頁の処ですネエ、ISS の潜在的活用項目なんて、此れ、もっと...重要なもん抜けてんですヨ。其れ一寸あの、後でエエト、ケンショシミナル(?)これ位と思われると非常に拙いんで、あのー、潜在的活用は未だ未だありますと。

池上委員長: ア、あの、其れではどうも、長い間有難う御座いました。此れからも色々、ダイナミックにやってきたいと云う風に思ひまして、是非ご協力をお願いします。では、第 5 回の ISS 特別部会を此れで終わります。どうも有難う御座いました。